

これまで読み込ませた起案を進めて、モデル無き社会打破事務局群の発足を示すホームページを制作します。充実版をベースに部品としての原稿を用意したいと思っています。

発起人は10名居ますが、起案者が用意するメニューを主にします。

解決策・代替案・救済案は、下記を中心に揃えます。

ワークショップや、対話会はイベントとして展開します。

- 探究学習の必修化
- 進路相談ホットライン
- 心理的安全性ガイドライン策定
- メディアリテラシー教育
- 自己超越カリキュラム開発
- 1on1 メンタリング
- 心理的安全性ガイドライン
- 社外メンター紹介
- 政策ウォッチング団体育成
- メンタルケア
- 価値観ワークショップ
- 若者支援アウトリーチ事業
- ひきこもり地域支援センター案内
- グローバルリスク評価標準化
- 能力開発投資
- フロー体験を生む業務設計
- 心理職による伴走
- メンタリング
- 学校カウンセラー配置強化
- 行動につながるマイクロアクション設計
- ウェルビーイング指標導入
- 地域通貨実証
- ライフプラン相談
- 制度活用ナビゲーター
- 段階的復職プログラム
- 公正な評価制度
- メンター制度
- 内発的動機を引き出す環境設計
- 関係性スキル研修
- 評価基準を「正解」から「問い」へ転換
- 当事者ストーリー教材開発
- 学習支援
- 当事者会
- 対話ファシリテーター養成
- スクールソーシャルワーカー連携
- 対話練習プログラム
- リーダー向け対話研修
- 哲学対話講座
- オンライン哲学カフェ
- 哲学相談
- 失敗共有会の制度化
- キャリア相談
- コミュニティ財団設立
- 金融教育
- プッシュ型通知
- 就労準備プログラム
- エンパワメント教育
- 女性向けエンパワメント講座
- 共同事業マッチング
- コミュニティ参加
- 自己選択を促す制度
- 無意識バイアス研修の必須化
- ハラスメント駆け込み導線
- 保護者向け教育観アップデート講座
- 自己肯定感を育む教育プログラム
- 学校・職場の対話プログラム
- 企業内パーパス策定支援
- 当事者参画委員会
- アクセラレーションプログラム
- 多様性指標の第三者監査
- 子ども向けキャリア対話会
- 学校外社会貢献単位の認定

- ☒ アサーション研修
- ☒ 紛争予防プロトコル整備
- ☒ 学校での情報モラル教育
- ☒ アート×哲学プログラム
- ☒ リーダー育成投資
- ☒ ワールドカフェ等の場づくり
- ☒ 人権相談ホットライン
- ☒ ファクトチェック団体育成
- ☒ 産学連携プロジェクト
- ☒ 政策提言ペーパー作成
- ☒ 制度横断ナビゲーション
- ☒ 個別配慮プラン作成
- ☒ 世代間対話セッション
- ☒ アクセラレーションプログラム
- ☒ 多様性指標の第三者監査
- ☒ 子ども向けキャリア対話会
- ☒ 学校外社会貢献単位の認定
- ☒ アサーション研修
- ☒ 紛争予防プロトコル整備
- ☒ 学校での情報モラル教育
- ☒ リーダー育成投資
- ☒ 参加型予算編成
- ☒ 差別禁止法制定
- ☒ 教育現場 SOGI 教育
- ☒ 贈与経済プログラム
- ☒ 現場改善コンサル

各ページの原稿案を提案し、その原稿案を各ページごとにテキストとして出力ください。
課題地図については、図案をスライドに出力して提供ください。

承知しました。
以下に、「モデル無き社会打破事務局群」ホームページ充実版をベースにした、各ページの部品原稿案を、そのまま WordPress の固定ページや下層ページに流し込みやすいテキスト形式でまとめます。

また、課題地図スライドは作成用プロジェクトを起こしてあります。
確認・編集用のスライド URL はこちらです。
課題地図スライド(編集・確認)

プレビュー画像もあります。

スライド 1 全体俯瞰



3領域詳細マップ — 課題 → 施策 → 期待変化

Person / Business / Society の各レイヤーで、何が起きていて、何を届け、何が変わるのか。

PERSON 個人 — 自己理解と進路、メンタル	BUSINESS 組織 — 公正な職場と能力開発	SOCIETY 社会 — 政策と地域、制度横断
<p>01 — 課題</p> <p>自己理解が育たないまま進路決定 メンタル不調と相談先の不足 制度はあるのに辿り着けない 対話の機会がそもそも無い</p>	<p>01 — 課題</p> <p>心理的安全性の欠如、評価への不信 能力開発投資の不足と内発的動機の喪失 ハラスメント・無意識バイアス 失敗が共有されない学習停滞</p>	<p>01 — 課題</p> <p>政策と当事者の距離、参加の不在 若者・地域の支援が制度の谷間に 差別・SOGI・人権の制度的空白 情報の非対称、ファクト不在</p>
<p>02 — 施策（事務局アウトプット）</p> <p>探究学習の必修化 / 進路相談ホットライン メディアリテラシー教育 / 自己超越カリキュラム lon1メンタリング / メンタルケア 価値観ワークショップ / ライフプラン相談 制度活用ナビゲーター / 段階的復帰プログラム メンター制度 / 自己肯定感を育む教育プログラム 子ども向けキャリア対話会 / アサーション研修</p>	<p>02 — 施策（事務局アウトプット）</p> <p>心理的安全性ガイドライン策定 公正な評価制度 / 能力開発投資 フロー体験を生む業務設計 内発的動機を引き出す環境設計 関係性スキル研修 / リーダー向け対話研修 企業内パス策定支援 無意識バイアス研修の必須化 ハラスメント駆け込み專線 / 失敗共有会の制度化 リーダー育成投資 / 現場改善コンサル</p>	<p>02 — 施策（事務局アウトプット）</p> <p>政策ウォッチング団体育成 若者支援アウトリーチ事業 / 地域通貨実証 コミュニティ財団 / 共同事業マッチング 当事者参画委員会 / 多様性指標の第三者監査 人権相談ホットライン / ファクトチェック団体育成 産学連携プロジェクト / 政策提言ペーパー 制度横断ナビゲーション / 参加型予算編成 差別禁止法制定 / 教育現場SOGI教育 開与経済プログラム</p>
<p>03 — 期待される変化</p> <p>自分の物差しを持ち直し、 孤立から伴走へ、進路選択に納得を取り戻す。</p>	<p>03 — 期待される変化</p> <p>意思決定が透明になり、現場が学習し、 人が育つ組織へ。心理的安全性が標準装備に。</p>	<p>03 — 期待される変化</p> <p>制度と人がつながり直し、参加の経路が開く。 救済が届き、社会の余白が回復する。</p>

3領域は別個ではなく、SARと対話レイヤーで縦串に接続される。

スライド 3 参加から実装へ

参加から実装へ — 対話の場が SAR を生み、事務局群が届ける

ワークショップや哲学カフェは「気持ちのよい時間」では終わらせない。問いを形成し、SARを熟成し、現場へ実装する経路として機能する。



LAYER — 対話の場が担う4つの機能



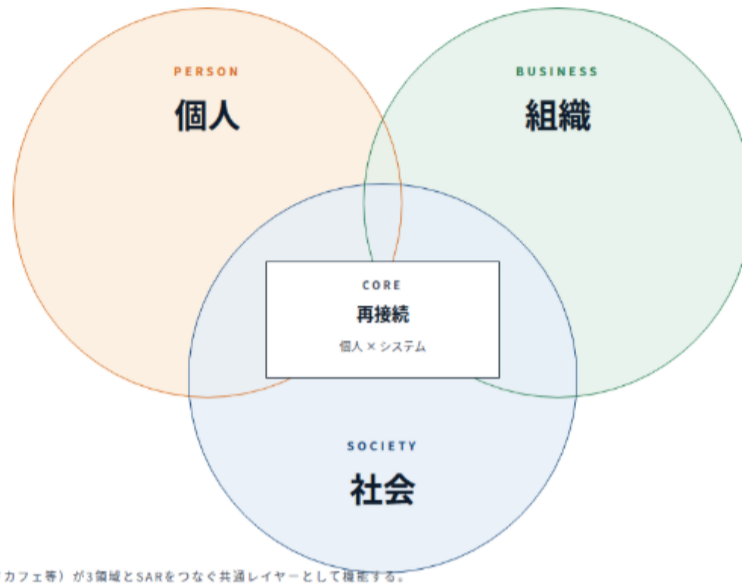
対話の場 → 問い → SAR → 事務局 → 現場、という単一方ではなく、現場から再び対話の場へ戻る循環として設計される。

閉塞感を、対話と実装で。

100~300の専門事務局が、個人・組織・社会のひずみを
解決策・代替案・救済案として届け合う。

3 PILLARS

- 01 **閉塞感の打破**
「正解モデル」が機能しない時代に、複数の選択肢を社会へ。
- 02 **不安・孤立の解消**
伴走・対話・相談專線を地域・職場・学校に分散配置する。
- 03 **個人とシステムの再接続**
制度横断ナビと参加経路で、当事者と制度を再びつなぎ直す。



DELIVERY - SAR

- S **解決策 Solution**
制度・組織・教育の仕組み側を変える根本対処。
- A **代替案 Alternative**
主流に乗れない人のための「もうひとつの道」を並走させる。
- R **救済案 Relief**
制度の隙間に落ちた人を、いま支えるセーフティネット。

対話の場（ワークショップ・哲学カフェ・世代間対話・ワールドカフェ等）が3領域とSARをつなぐ共通レイヤーとして機能する。

今回の原稿は、これまでの起案文・オファー文・既存 about You の構成を踏まえ、「閉塞感の打破」「不安・孤立の解消」「個人とシステムの再接続」、そして SAR=解決策・代替案・救済案 を中核に据えて再構成しています。Source Source また、メニューは Person / Business / Society を軸にしつつ、起案者が用意する具体的施策群を主として配置する前提で編集しています。Source

0. 全体トーン的前提

以下の原稿は、すべて
「賛同を募るだけでなく、活用・導入・参加に進める」
ためのトーンで統一しています。

抽象理念だけで終わらせない

個人・組織・社会を分断せずに扱う

ワークショップや対話会は「イベント」ではなく「参加と実装の入口」として位置づける

発起人 10 名はいるが、サイトの主役は「起案者が用意するメニューと仕組み」

解決策・代替案・救済案を、実務的に整理し届ける「事務局群」として示す

1. TOP ページ原稿案

ページタイトル

モデル無き社会打破事務局群

ヒーロー見出し

個人の手と力が、社会に届く道筋をつくる。

ヒーローサブコピー

「モデル無き社会」の閉塞感を打破するために。

私たちは、100~300 の専門事務局を群れとして立ち上げ、

社会に横たわるひずみやジレンマへ、

解決策・代替案・救済案 を編み、届け、実装へ近づけます。Source Source

CTA

構想を読む

メニューを見る

参加・連携を相談する

セクション 1 見出し

この構想が挑むもの

本文

私たちが向き合うのは、単なる個別課題ではありません。

意思決定や資源分配のかたちによって生じている、社会のひずみ、ジレンマ、構造的な遠さです。

その結果として、個人は孤立し、組織は閉塞し、社会は「変えられないもの」として固定されていきます。

モデル無き社会打破事務局群は、この遠さを縮め、一人ひとりの歯がゆさを社会に届く提案へ変えていくための受け皿です。Source

セクション 2 見出し 3つの柱

本文

閉塞感の打破

硬直化した仕組みに風穴を開ける実働部隊を増やします。

不安・孤立の解消

制度や組織からこぼれ落ちやすい不安に対し、支援と接続の場を重ねます。

個人とシステムの再接続

「声はあるのに届かない」という距離を縮め、代替ルートを実装します。Source Source

セクション 3 見出し

メニューは3方向から動きます

本文

Person では、自己理解、進路、対話、メンタルケア、伴走を。

Business では、心理的安全性、評価制度、能力開発、関係性設計を。

Society では、政策ウォッチング、地域支援、制度横断ナビゲーション、対話の場づくりを進めます。

個人・組織・社会を切り離さず、同時に動かすことがこの事務局群の特徴です。Source

セクション 4 見出し

イベントは参加の入口です

本文

ワークショップ、対話会、哲学カフェ、世代間対話、ワールドカフェ。

これらは単なる単発イベントではありません。

問いを育て、提案を熟成し、協働の起点をつくるための実践の場です。

セクション 5 見出し

私たちにできること

本文

解決策の設計

代替案の編集

救済案の整理

導入先に応じたコーディネート

学校・企業・地域・当事者との接続

発起人・連携先・実装先の編成

最終 CTA 見出し

嘆きを、創造の矢へ。

最終 CTA 本文

この構想は、賛同を募るだけのページではありません。

活用したい方、導入したい方、連携したい方、共に立ち上げたい方に向けた実装の入口です。Source

2. 構想ページ原稿案

ページタイトル

構想

リード

モデル無き社会打破事務局群は、

「変わらない」と思われてきた社会の閉塞感に対し、

100～300 の専門事務局を群れとして立ち上げる構想です。

目的は、個人・組織・社会のあいだに生じた距離を縮め、

解決策・代替案・救済案を現実が届くかたちへ編み直すことにあります。Source

セクション 1 見出し

なぜ、いま事務局群なのか

本文

社会には、すでに多くの制度、組織、支援、議論があります。

それでもなお、届かない声、こぼれ落ちる課題、分断されたままの現場が残り続けています。

私たちは、その原因の一つを「個人とシステムの距離」にあると考えます。

だからこそ、単独の団体や単発の施策ではなく、複数の専門事務局が連携する「群れ」というかたちを採ります。Source

セクション 2 見出し

この構想の3つの柱

本文

閉塞感の打破

不安・孤立の解消

個人とシステムの再接続

私たちは、この3点を理念にとどめず、事務局・メニュー・イベント・提案導線として具体化していきます。Source

セクション3 見出し

SARとは何か

本文

SARとは、

Solution=解決策

Alternative Proposal=代替案

Relief Plan=救済案

の頭文字です。

私たちは、社会課題を「正解探し」だけで扱うのではなく、

解決策、代替案、救済案をそれぞれ整理し、必要な相手へ届くようにアレンジとコーディネートを行います。Source

セクション4 見出し

このホームページが果たす役割

本文

このサイトは、構想の紹介だけを行う場所ではありません。

課題を可視化し、メニューを示し、発起人や連携先を募り、

社会課題ニーズを抱くマーケットやターゲットへ届けるための実装基盤です。

3. 課題地図ページ原稿案

ページタイトル

課題地図

リード

課題地図は、社会に散在している悩みや摩擦を、

個人・組織・社会の3層に分けて見える化するための図です。

私たちは、課題を単独の問題としてではなく、相互に連動する構造として捉えます。

セクション1 見出し

中心にあるのは「閉塞感」

本文

モデル無き社会における閉塞感とは、

方向が見えないこと、動いても届かないこと、関わり方が分からないことが重なって生まれる停滞です。

それは個人の問題であると同時に、組織の問題でもあり、社会構造の問題でもあります。

セクション2 見出し

3つの領域

本文

Person

進路、自己理解、メンタルケア、孤立、学習支援、自己選択、ライフプラン

Business

心理的安全性、評価制度、能力開発、動機づけ、対話、ハラスメント予防、職場設計

Society

若者支援、政策ウォッチング、地域支援、制度横断ナビゲーション、人権、参加型予算、差別禁止、公共対話

セクション3 見出し

課題地図の見方

本文

一つの課題は、一つの領域だけに属するわけではありません。

たとえば、進路不安は教育の問題であると同時に、就労の問題であり、地域の支援導線の問題でもあります。

課題地図は、その重なりを見つけ、どこに事務局を置き、どこにメニューを差し込むかを考えるための土台です。

セクション4 見出し

課題地図スライド

本文

課題地図の全体俯瞰、3 領域マップ、参加から実装への流れは、図解スライドとしてご覧いただけます。
課題地図スライドを見る

4. 事務局群ページ原稿案

ページタイトル

事務局群

リード

モデル無き社会打破事務局群は、
社会にある課題・ジレンマ・構造的な遠さに対して、
100～300 の専門事務局を群れとして立ち上げる構想です。
それぞれの事務局は独立して動くのではなく、相互につながりながら機能します。 Source

セクション 1 見出し

事務局とは何か

本文

事務局とは、単なる管理機能ではありません。
課題を整理し、関係者を集め、提案を編み、導入先へ届けるための「実働の場」です。
本構想では、各テーマごとに小さな事務局を立ち上げ、それらを群れとして運用します。

セクション 2 見出し

事務局群の主な機能

本文

課題の受け止め
当事者・関係者の接続
解決策・代替案・救済案の編集
ワークショップや対話会の開催
提案先への導入支援
連携主体の編成
セクション 3 見出し
想定する事務局テーマ

本文

進路相談、メンタルケア、心理的安全性、対話研修、若者支援、政策ウォッチング、制度活用ナビゲーション、地域通貨、参加型予算、ファクトチェック、人権相談、学習支援など、社会課題ニーズに応じて事務局を設計します。

セクション 4 見出し

群れである意味

本文

一つのテーマだけでは届かない相手があります。
一つの制度だけでは救えない場面があります。
だからこそ、複数の事務局が互いの視点と資源を持ち寄る「群れ」であることに意味があります。

5. メニュー総覧ページ原稿案

ページタイトル

メニュー

リード

私たちのメニューは、個人・組織・社会を切り離さずに動かすため、
Person / Business / Society の 3 方向から構成されています。
起案者が用意する具体的な施策群を中心に、必要に応じて発起人や協力者のメニューを編み込みます。 Source

セクション 1 見出し

Person Menu

本文

個人が抱く不安、進路、孤立、自己理解、回復、対話への必要に応えるメニューです。
自己選択と行動の起点を支えます。

セクション 2 見出し

Business Menu

本文

組織の閉塞感、評価、心理的安全性、関係性、能力開発、パーパス形成に働きかけるメニューです。従事者の挑戦と成長を引き出す組織づくりを支えます。Source

セクション 3 見出し
Society Menu

本文

制度の隙間、地域課題、政策提言、若者支援、人権、参加、公共対話に向き合うメニューです。個人の声を社会に届く提案へ編み直します。Source

セクション 4 見出し
イベントとして展開するメニュー

本文

ワークショップ、対話会、哲学カフェ、世代間対話、学校・職場の対話プログラム、ワールドカフェ等は、テーマ別にイベントとして展開します。参加の入口として開きながら、実装テーマへ接続していきます。

6. Person Menu ページ原稿案
ページタイトル
Person Menu

リード

Person Menu は、一人ひとりの自己理解、進路、回復、選択、対話を支えるためのメニューです。「どう生きたいか」「どこへ進みたいか」「今の自分に何が必要か」を、個人の責任だけに押し返さず、社会との接続の中で捉え直します。Source

セクション見出し
主なメニュー

本文

探究学習の必修化
進路相談ホットライン
メディアリテラシー教育
自己超越カリキュラム開発
1on1 メンタリング
メンタルケア
価値観ワークショップ
若者支援アウトリーチ事業
ひきこもり地域支援センター案内
ライフプラン相談
制度活用ナビゲーター
段階的復職プログラム
メンター制度
自己肯定感を育む教育プログラム
子ども向けキャリア対話会
アサーション研修
学習支援
当事者会
対話練習プログラム
哲学相談
セクション 2 見出し
このメニューが目指すこと

本文

Person Menu の目的は、個人を「支援の受け手」に固定することではありません。問いを持ち、選び、つながり、次の行動に移れる人を増やすことです。

CTA

相談する / イベントに参加する / 連携する

7. Business Menu ページ原稿案
ページタイトル
Business Menu

リード

Business Menu は、組織の中にある閉塞感をほぐし、

従事者の挑戦と成長、そしてよりよい職場環境の設計を支えるメニューです。
未来構想、心理的安全性、評価、公正、対話、能力開発を横断的に扱います。Source

セクション見出し
主なメニュー

本文
心理的安全性ガイドライン策定
社外メンター紹介
能力開発投資
フロー体験を生む業務設計
公正な評価制度
内発的動機を引き出す環境設計
関係性スキル研修
リーダー向け対話研修
失敗共有会の制度化
企業内パーパス策定支援
無意識バイアス研修の必須化
ハラスメント駆け込み導線
現場改善コンサル
リーダー育成投資
メンタリング
心理職による伴走
セクション 2 見出し
Business Menu の考え方

本文
組織の課題は、制度の課題であると同時に、関係性の課題でもあります。
評価制度だけ変えても、対話がなければ定着しません。
研修だけ行っても、業務設計が変わらなければ持続しません。
Business Menu は、こうした分断を越えて、働く現場の実装に近づくメニューです。

CTA
導入を相談する / 説明を受ける / 共同企画を相談する

8. Society Menu ページ原稿案
ページタイトル
Society Menu

リード
Society Menu は、業界や制度をまたいで社会に横たわる課題に対し、
一人ひとりの挑戦と成長が届くようにするためのメニューです。
テーマ別の事務局、SAR の編集、公共的な対話の場を組み合わせで進めます。Source

セクション見出し
主なメニュー

本文
政策ウォッチング団体育成
若者支援アウトリーチ事業
地域通貨実証
コミュニティ財団設立
共同事業マッチング
コミュニティ参加
当事者参画委員会
多様性指標の第三者監査
学校外社会貢献単位の認定
人権相談ホットライン
ファクトチェック団体育成
産学連携プロジェクト
政策提言ペーパー作成
制度横断ナビゲーション
参加型予算編成
差別禁止法制定
教育現場 SOGI 教育
贈与経済プログラム
セクション 2 見出し
Society Menu の目的

本文

Society Menu の目的は、社会課題を「誰かが解決するもの」として外在化することではありません。当事者、支援者、実務者、組織、地域、制度がつながり直すことで、社会の側に新しい回路をつくることです。

CTA

テーマを相談する / 事務局設計を相談する / 公共連携を相談する

9. 提案広場ページ原稿案

ページタイトル

提案広場

リード

提案広場は、モデル無き社会打破事務局群に集まる
解決策・代替案・救済案 を整理し、社会課題ニーズを抱く相手へ届けるためのページです。
ここでは、アイデアを並べるだけでなく、実装可能性や接続先もあわせて考えます。

セクション 1 見出し

SAR とは

本文

S | 解決策 Solution

課題に対して、直接的な改善や制度設計を行う案

A | 代替案 Alternative Proposal

既存の仕組みだけでは届かないときに、新しい回路や別の選択肢をつくる案

R | 救済案 Relief Plan

すでに困難の中にいる人や現場に、いまずぐ必要な支援や緩衝材を届ける案 Source

セクション 2 見出し

どのように提案を扱うか

本文

私たちは、提案を「正しいか間違っているか」だけで判断しません。

どの課題に向けたものか。

誰に届くべきか。

どの事務局が扱うか。

イベントや対話会で熟成すべきか。

こうした視点を加えながら、提案を育てていきます。

セクション 3 見出し

主な提案分野

本文

教育、進路、メンタルケア、心理的安全性、評価制度、対話、若者支援、地域参加、政策提言、人権、公共性、制度横断、ファクトチェック、エンパワメント、ウェルビーイング など

CTA

提案する / 提案を受け取る / 連携する

10. イベントページ原稿案

ページタイトル

イベント

リード

イベントは、参加の入口であり、問いの形成の場であり、提案の熟成の場です。
私たちは、ワークショップや対話会を単発消費にせず、事務局群の活動へ接続していきます。

セクション見出し

展開するイベント

本文

価値観ワークショップ

哲学対話講座

オンライン哲学カフェ

学校・職場の対話プログラム

ワールドカフェ等の場づくり

世代間対話セッション
子ども向けキャリア対話会
保護者向け教育観アップデート講座
対話ファシリテーター養成
リーダー向け対話研修
当事者会
失敗共有会
セクション 2 見出し
イベントの役割

本文
イベントは、参加者が「話して終わる」場ではありません。
問いを見つける。
他者と出会う。
提案の種を持ち帰る。
次の行動や事務局活動へつなげる。
そのための場として設計します。

CTA
開催予定を見る / 企画を相談する / 共催を相談する

11. ツール群ページ原稿案
ページタイトル
ツール群

リード
事務局群の活動を支えるのは、理念だけではありません。
自己理解、構想化、可視化、提案編集を支えるために、
3つのツールを用意しています。Source

セクション 1 見出し
リーダーシップマッピング

本文
自分や組織に備わっている「人と物事を動かす力」の配分を可視化するツールです。
個人の自己説明にも、チーム編成や組織分析にも活用できます。Source

セクション 2 見出し
未来構想書

本文
アイデアや挑戦を、未来に向けた提案としてまとめるためのツールです。
履歴や肩書だけでは届かない構想を、他者に渡せるかたちへ整えます。Source

セクション 3 見出し
ヒューマンキャンバス

本文
志、強み、欲求、スキル、活動、関心、壁、機会、縁を整理し、
自分や相手の現在地と未来像を言語化するためのツールです。Source

セクション 4 見出し
ツールの役割

本文
ツールは、単なる診断や記録のためにあるものではありません。
事務局群が扱うテーマ、イベントで生まれる問い、提案広場に集まる案を、
より届くかたちへ編集するための実務の道具です。

12. 発起人ページ原稿案
ページタイトル
発起人

リード
本構想には 10 名の発起人がいます。
ただし、このページの目的は、顔ぶれを並べることではありません。
発起人それぞれが、どのテーマを担い、どのメニューに関わり、
どのように事務局群の立ち上げに寄与するかを見える化することにあります。

セクション1 見出し 発起人の役割

本文
発起人は、構想への賛同者であるだけでなく、
テーマの担い手であり、問いの持ち主であり、事務局づくりの当事者です。
思想や専門性が異なっても、閉塞感を前にして立ち止まるのではなく、
新しい回路をつくるために集まっています。Source

セクション2 見出し このページで示すこと

本文
担当テーマ
関与する事務局
提供可能なメニュー
関心のある連携先
参加・協働の相談窓口
セクション3 見出し
起案者メニューを中心に編成します

本文
本サイトでは、起案者が用意するメニューを中核に据えます。
そのうえで、発起人ごとの経験や視点が、事務局群のテーマやイベントに編み込まれるように設計します。

13. 沿革・運営ページ原稿案 ページタイトル 沿革・運営

リード
この構想は、突然現れたものではありません。
自己実現というテーマをめぐる長年の試行錯誤、停滞、再起、編集、講座化、道具化を経て、
2026年の「モデル無き社会打破事務局群」へと接続しています。Source

セクション1 見出し 着想から現在まで

本文
本構想の背景には、自己実現というテーマを、静的な理想ではなく、
社会へ届く動的な設計として捉え直してきた経緯があります。
その過程では、構想の停滞や活動の凍結もありました。
しかし、それらを経たからこそ、理念だけでなく部品や道具や導線として整える発想に至っています。Source

セクション2 見出し 透明性について

本文
私たちは、順調な実績だけで信頼を得ようとは考えません。
着想、試行錯誤、軌道修正、停滞、再起、成果物。
これらのプロセスをできるだけ開示し、信頼形成につなげます。Source

セクション3 見出し 運営の基本方針

本文
個人・組織・社会を分断しない
当事者性を尊重する
問いを持つ人を排除しない
正解だけでなく、代替案と救済案も扱う
活動のプロセスを見える化する
単発で終わらない導線を設計する
14. 参加・問い合わせページ原稿案
ページタイトル
参加・問い合わせ

リード
この構想は、閲覧して終わるためのものではありません。

参加したい方、活用したい方、導入したい方、共催したい方、提案したい方へ、それぞれの入口を用意しています。

セクション1 見出し
こんな方に開いています

本文
発起人として関わりたい
特定テーマの事務局を立ち上げたい
Person / Business / Society Menu を導入したい
イベントを共催したい
提案や課題を持ち込みたい
支援、教育、企業、行政、地域の立場から連携したい
セクション2 見出し
主な問い合わせ内容

本文
構想全体について知りたい
課題地図を見ながら相談したい
メニュー導入を検討したい
ワークショップや対話会を開催したい
提案広場へ案を出したい
発起人や協力者として参加したい
セクション3 見出し
まずは対話から

本文
私たちは、いきなり結論だけを求めません。
まずは、何に歯がゆさを感じているのか、どこに遠さを感じているのか、そこからお聞かせください。
対話の中で、どのメニューや事務局が接続可能かをご一緒に整理します。

15. ステークホルダー別ページの短文原稿
個人向け
進路、孤立、回復、学び直し、自己理解、対話。
あなたが抱えている課題は、あなた一人だけの問題ではありません。
Person Menu やイベントを通して、次の行動につながる入口をひらきます。

企業向け
心理的安全性、評価、公正、対話、能力開発、パーパス。
組織の中にある閉塞感を、現場に届く仕組みに変えていくためのメニューをご提案します。

自治体向け
若者支援、制度横断、参加型予算、人権、対話、地域接続。
制度の隙間にある課題に対し、現場と政策をつなぐ補完的な回路を設計します。

NPO・地域団体向け
支援の現場で見えている声を、単発の支援で終わらせず、
提案・連携・制度接続へ進めるための事務局設計をご一緒します。

業界団体向け
業界固有の課題を閉じた問題にせず、
社会全体の変化や次世代の参加につながるテーマとして編み直す支援を行います。

16. 施策一覧ページの冒頭文案
このページでは、起案者が主に用意するメニュー群を一覧化しています。
それぞれの施策は、単独で完結するものではなく、
Person / Business / Society の各領域、イベント、事務局、SAR 提案とつながるよう設計されています。
導入、共催、試行、連携のご相談は、各施策または問い合わせページよりお寄せください。

17. このまま実装に回しやすい使い方
この原稿群は、WordPress では次の単位で使いやすいです。

タイトル
リード文
本文ブロック
一覧ブロック
CTA ブロック

特にトップ、構想、事務局群、メニュー、提案広場、イベント、問い合わせは、このまま固定ページの一次原稿として使えます。

必要であれば次に続けて、この原稿を「ページごとにコピペしやすいプレーンテキスト形式」に整え直すか、WordPress ブロック構成に合わせて「見出し 2・見出し 3・本文」の形で再整形 できます。

ホームページの充実版について、上記の具体的な掲載内容(ワイヤーフレームの要素)を書き出して、表示してみてください。

ホームページの充実版について、上記の具体的な掲載内容(ワイヤーフレームの要素)を書き出して、表示してみてください。

はい。

以下に、「モデル無き社会打破事務局群」ホームページ充実版を、実際に画面へ並べる要素=ワイヤーフレームの部品として、できるだけそのまま実装へ渡せる形で書き出します。

今回は、単なるサイトマップではなく、トップページに何を、どの順で、どんな見出し・説明・導線で載せるかまで具体化して示します。構想の核は、閉塞感の打破 / 不安・孤立の解消 / 個人とシステムの再接続であり、事務局群は解決策・代替案・救済案を届け合う円卓的な受け皿として企画されています。 [Source Source](#)

また、メニュー構造は既存の about You の **Person / Business / Society** の三層を継承しつつ、今回ご提示いただいた具体策を中心に再編する前提です。Person は自己理解・進路・対話、Business は未来構想・活性化・マーケティング、Society は社会課題解決事務局群・SAR コーディネート・公共的な場づくりに接続されます。 [Source](#)

課題地図の図版については、すでにスライド化の作業プロジェクトがあります。確認用はこちらです。

[課題地図スライド\(確認・編集\)](#)

主要図版プレビューは、[全体俯瞰](#)、[3領域詳細](#)、[参加から実装へ](#)、[Web 転用図版](#) です。

充実版トップページの全体像

まず、トップページ全体は、「宣言 → 課題の可視化 → 仕組み → メニュー → 提案募集 → 発起人 → 信頼形成 → 参加導線」という流れで組むのが最も伝わりやすい。

つまり、訪問者が最初に「何の構想か」をつかみ、その次に「自分に関係があるか」を判断し、最後に「参加・相談・導入」のどれかへ進める構造です。 [Source Source Source](#)

画面表示イメージ(デスクトップのワイヤーフレーム)

Copy

| LOGO モデル無き社会打破事務局群 |
| 構想 / 課題地図 / 事務局群 / メニュー / 提案広場 / 発起人 / 問い合わせ |

| [ヒーロー] |
| 個人の手と力が、社会に届く道筋をつくる。 |
| 「モデル無き社会」の閉塞感を打破する、100~300の専門事務局群構想 |
| [構想を読む] [メニューを見る] [参加・連携を相談する] |

| [3つの柱] |
| 閉塞感の打破 | 不安・孤立の解消 | 個人とシステムの再接続 |

| [課題地図] |
| 中央:閉塞感 / 周囲:Person・Business・Society / 下:SAR |
| [課題地図を見る] |

| [事務局群とは] |
| 100~300の専門事務局 / SAR 編集 / ワークショップ / 導入支援 |

| [ステークホルダー別入口] |
| 個人 / 企業 / 自治体 / NPO・地域団体 / 業界団体 |

| [メニュー総覧] |
| Person Menu | Business Menu | Society Menu | イベント |

| [具体策ピックアップ] |
| 進路相談 / 心理的安全性 / 政策ウォッチング / 対話会 など |

| [提案広場] |
| 解決策 / 代替案 / 救済案 |
| [提案する] [提案を受け取る] |

| [イベント] |
| 哲学対話 / ワールドカフェ / 価値観WS / 世代間対話 |

[発起人 10 名]	
カード一覧(担当テーマ / 関与事務局 / 連携したい相手)	
[沿革・運営]	
着想 / 試行錯誤 / 自己実現新論 / ツール / 今回構想	
[最終 CTA]	
嘆きを、創造の矢へ。	
[相談する] [参加する] [資料を見る]	

Copy

各セクションに載せる具体的な掲載内容

以下からが、実際に「何を表示するか」の部品一覧です。

1. ヘッダー

表示要素

要素	表示内容
ロゴ	モデル無き社会打破事務局群
補助コピー	about You 発・社会課題攻略事務局『群れ』構想
グローバルナビ	構想 / 課題地図 / 事務局群 / メニュー / 提案広場 / 発起人 / 問い合わせ
右上 CTA	参加・連携を相談する

表示文言例

モデル無き社会打破事務局群

個人とシステムの距離を埋める、社会課題攻略事務局『群れ』構想 [Source](#)

2. ヒーローセクション

表示要素

要素	表示内容
メインコピー	個人の手と力が、社会に届く道筋をつくる。
サブコピー	「モデル無き社会」の閉塞感を打破するため、100～300 の専門事務局を群れとして立ち上げます。
説明文	解決策・代替案・救済案を編み、届け、実装へ近づけるためのホームページです。
CTA1	構想を読む
CTA2	メニューを見る
CTA3	参加・連携を相談する

表示文面案

個人の手と力が、社会に届く道筋をつくる。

モデル無き社会に漂う閉塞感に対し、私たちは 100～300 の専門事務局を群れとして立ち上げます。目的は、社会に生じているひずみやジレンマに対して、解決策・代替案・救済案を編み、必要な相手に届け、実装へ近づけることです。 [Source](#) [Source](#)

3. 3 つの柱セクション

表示要素

カード	見出し	短い説明
1	閉塞感の打破	硬直化した仕組みに風穴を開ける実働部隊を増やす
2	不安・孤立の解消	孤立を予防し、支援とつながりの場を重ねる
3	個人とシステムの再接続	届かなかった声と意思を社会へつなぐ

表示文面案

この構想は、閉塞感の打破、不安・孤立の解消、個人とシステムの再接続という 3 つの柱で組み立てられています。これらは理念ではなく、事務局・メニュー・イベント・提案導線へ落とし込まれる実装の骨格です。 [Source](#) [Source](#)

4. 課題地図セクション

表示要素

要素	表示内容
セクション見出し	課題地図

要素	表示内容
図版	課題地図スライド 4 枚のうち 1 枚または 2 枚を掲載
図の補足	中央に閉塞感、周囲に Person / Business / Society、下部に SAR
ボタン	課題地図ページへ / スライドを見る

推奨表示

- 左側に図版
- 右側に短文 3 段組
「何が中心課題か」
「3 領域とは何か」
「SAR がどう接続するか」

表示文面案

課題地図では、社会に散在している悩みや摩擦を、Person・Business・Society の 3 領域に整理します。中心にあるのは「閉塞感」であり、その周囲にある進路不安、心理的安全性、地域支援、政策提言、人権、対話、評価制度などの論点を相互につながる課題として可視化します。 [Source](#)

図版候補

5. 事務局群とはセクション

表示要素

要素	表示内容
見出し	事務局群とは
説明文	100～300 の専門事務局を群れとして立ち上げる構想
アイコン 4 つ	課題受け止め / SAR 編集 / イベント実施 / 導入支援
小見出し	群れである意味

表示文面案

事務局群とは、社会課題を受け止め、関係者をつなぎ、解決策・代替案・救済案を整理し、必要な相手へ届けるための実働の場です。単独の活動体ではなく、複数の専門事務局が互いに連携しながら動く「群れ」であることに意味があります。 [Source](#)

6. ステークホルダー別入口セクション

表示要素

カード	想定対象	一言
個人の方へ	当事者・若者・保護者・学習者	進路、孤立、対話、回復の入口
企業の方へ	人事・組織開発・CSR・経営者	心理的安全性、評価、公正、対話
自治体の方へ	行政・公共政策担当	制度横断、若者支援、参加型予算、人権
NPO・地域団体の方へ	支援団体・地域実践者	支援を提案・制度接続へ広げる
業界団体の方へ	連盟・協会・横断組織	業界課題を社会的テーマへ編み直す

表示文面案

このサイトは、誰にでも同じ言葉を投げるためのものではありません。個人、企業、自治体、NPO・地域団体、業界団体など、それぞれが抱える課題の位置に応じて、入口を用意しています。 [Source](#)

7. メニュー総覧セクション

表示要素

タブ or カード	内容
Person Menu	個人の自己理解・進路・回復・対話
Business Menu	組織活性化・心理的安全性・評価・対話
Society Menu	政策、地域支援、若者支援、制度横断、公共対話
Event	ワークショップ・対話会・哲学カフェ等

表示文面案

私たちのメニューは、Person / Business / Society の 3 方向で構成されています。個人の支援、組織の設計、社会への接続を切り離さずに扱うことで、一つの課題を複数の角度から動かせるようにしています。 [Source](#)

8. 具体策ピックアップセクション

ここは、訪問者に「何ができるのか」を直感的に伝える非常に重要な場所です。すべてを並べるのではなく、まずは代表施策をカテゴリ別に見せます。

表示要素

区分	掲載例
Person	進路相談ホットライン / メンタルケア / 1on1 メンタリング / ライフプラン相談
Business	心理的安全性ガイドライン策定 / 公正な評価制度 / フロー体験を生む業務設計 / 企業内パーパス策定支援
Society	政策ウォッチング団体育成 / 若者支援アウトリーチ事業 / 制度横断ナビゲーション / 参加型予算編成
Event	価値観ワークショップ / 哲学対話講座 / ワールドカフェ / 世代間対話セッション

表示文面案

起案者が用意するメニューの中核は、個人の伴走、組織の変化、社会への接続をまたぐ具体策です。進路相談、心理的安全性、若者支援、制度横断ナビゲーション、対話の場づくりなどを、単独施策ではなく事務局群の中で位置づけて展開します。

9. 提案広場セクション

表示要素

要素	表示内容
見出し	提案広場
3 カード	解決策 / 代替案 / 救済案
補足	提案は一覧化し、育て、届ける
CTA	提案する / 提案を受け取る

表示文面案

提案広場では、解決策だけでなく、代替案や救済案も同じ重さで扱います。社会課題に対して唯一の正解を求めるのではなく、いま必要な案、別の回路をつくる案、まず支える案を整理し、必要な現場へ届けることを重視します。 [Source](#)

10. イベントセクション

表示要素

要素	表示内容
見出し	イベント
カード	哲学対話講座 / オンライン哲学カフェ / 価値観ワークショップ / 対話ファシリテーター養成 / 世代間対話
補足文	イベントは参加の入口であり、問いの形成と提案熟成の場
CTA	開催予定を見る / 共催を相談する

表示文面案

ワークショップや対話会は、単なる単発イベントではありません。参加の入口をつくり、問いを言葉にし、関係性を育て、提案を熟成させ、事務局活動へ接続するための実践の場です。

11. 発起人 10 名セクション

表示要素

カード内要素	内容
写真 or アイコン	各発起人
名前	発起人名
一言	担当テーマまたはミッション
担当領域	Person / Business / Society / 横断
関与事務局	例: 若者支援事務局、対話実装事務局 など
CTA	詳細を見る

表示文面案

本構想には 10 名の発起人がいます。ただし、このセクションの目的は顔ぶれの紹介ではありません。誰がどのテーマに関わり、どの事務局を担い、どんな相手と連携しようとしているのかを見える化することにあります。 [Source](#)

12. 沿革・運営セクション

表示要素

要素	表示内容
見出し	沿革・運営

要素	表示内容
年表抜粋	着想 / 試行錯誤 / 停滞 / 再起 / 自己実現新論 / ツール群 / 事務局群構想
説明	単なる実績列挙ではなく、構想の背景と変遷
CTA	沿革を見る

表示文面案

この構想は、長年にわたる自己実現というテーマの探究、試行錯誤、停滞、再起、道具化、講座化を経て現在に至っています。信頼形成のために必要なのは、実績の列挙だけではなく、何を考え、なぜ軌道修正し、何を残してきたかを示すことだと考えています。 [Source](#)

13. 最終 CTA セクション

表示要素

要素	表示内容
見出し	嘆きを、創造の矢へ。
本文	賛同、参加、導入、連携の入口を示す
ボタン	相談する / 参加する / 資料を見る

表示文面案

このホームページは、賛同だけを募るためのものではありません。活用したい方、導入したい方、テーマを持ち寄りしたい方、共に事務局を立ち上げたい方に向けた実装の入口です。現状の嘆きを、次の構造をつくる力へ変えていくために、ご一緒できることを探したいと考えています。 [Source](#)

モバイルでの表示順

モバイルでは、情報量を減らすより、順番を絞るのが重要です。推奨順は次の通りです。

順番	表示要素
1	ヒーロー
2	3つの柱
3	課題地図
4	ステークホルダー別入口
5	メニュー総覧
6	具体策ピックアップ
7	提案広場
8	イベント
9	発起人
10	沿革・運営
11	最終 CTA

実装担当へ渡しやすい「部品名」一覧

最後に、WordPress や Figma でそのままセクション名として扱いやすいよう、部品名だけ抜くようになります。

セクション ID 想定	セクション名
sec-hero	ヒーロー
sec-pillars	3つの柱
sec-issue-map	課題地図
sec-secretariats	事務局群とは
sec-stakeholders	ステークホルダー別入口
sec-menu	メニュー総覧
sec-highlights	具体策ピックアップ
sec-proposals	提案広場

セクション ID 想定	セクション名
sec-events	イベント
sec-founders	発起人 10 名
sec-about	沿革・運営
sec-cta	最終 CTA

一言でまとめると

この充実版トップページは、「理念を語るページ」ではなく、構造を見せ、課題を可視化し、メニューを示し、提案を募り、導入と参加へつなげるページとして設計するのが最も強いです。

そのため、表示要素は必ず

ヒーロー → 3 本柱 → 課題地図 → 事務局群 → メニュー → 提案 → イベント → 発起人 → 沿革 → CTA

の順で並べるのが適しています。 [Source Source Source](#)

必要であれば次に、

このワイヤーフレーム要素をそのまま Figma 用のフレーム構成表にするか、

WordPress ブロックエディタ用に「見出し・本文・ボタン」単位へ分解してお渡しできます。

この充実版ワイヤーフレームを、WordPress ブロックエディタ用に「見出し・本文・ボタン・画像指示」まで分解して、ページごとにコピペできる形式で出力してください。

以下に、充実版ワイヤーフレームを、WordPress ブロックエディタ(Gutenberg)でそのまま組みやすい形に分解して、ページごとにコピペしやすい形式でまとめます。

方針は次の通りです。

- 1 ページ = セクション単位の部品集
- 各セクションごとに
ブロック種類 / 見出し / 本文 / ボタン / 画像指示 を明記
- 実装担当は、これを見ながら
カバー / グループ / カラム / 見出し / 段落 / ボタン / 画像 を配置すれば組める構成
- 課題地図ページの画像指示には、すでに作成済みの図版リンクを入れています

今回の構成は、起案の 3 本柱、SAR、Person / Business / Society のメニュー構造、ツール群、沿革の考え方をベースにしています。 [Source Source Source Source Source](#)

使い方

以下はすべて、各ページごとにコピペ用の設計書です。

書式は統一しています。

- [ブロック種類]
- 見出し
- 本文
- ボタン
- 画像指示

必要に応じて、本文はそのままコピペし、画像指示だけデザイナー向けメモとして使ってください。

1. トップページ

ページ名

トップ

スラッグ

/

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

個人の手と力が、社会に届く道筋をつくる。

本文

モデル無き社会に漂う閉塞感に対し、私たちは 100~300 の専門事務局を群れとして立ち上げます。

目的は、社会に生じているひずみやジレンマに対して、解決策・代替案・救済案を編み、必要な相手に届け、実装へ近づけることです。

ボタン

- 構想を読む
- メニューを見る
- 参加・連携を相談する

画像指示

- 背景は抽象的なネットワーク図、または円卓・接続・交点を想起させる図版
- 白背景ベースでも可
- 文字可読性を優先
- 強い写真より、構造図的なビジュアル推奨

セクション 2

[ブロック種類] グループ + 3 カラム

見出し

3 つの柱

本文

この構想は、閉塞感の打破、不安・孤立の解消、個人とシステムの再接続という 3 つの柱で組み立てられています。これらは理念ではなく、事務局・メニュー・イベント・提案導線へ落とし込まれる実装の骨格です。

ボタン

なし

画像指示

- 3 カラムカード
- 各カードにアイコンを配置
 - 閉塞感の打破: 風穴・突破・矢印
 - 不安・孤立の解消: つながり・手・輪
 - 個人とシステムの再接続: ノード接続・回路

3 カラム内テキスト

1. 閉塞感の打破
硬直化した仕組みに風穴を開ける実働部隊を増やします。
2. 不安・孤立の解消
孤立を予防し、支援とつながりの場を重ねます。
3. 個人とシステムの再接続
届かなかった声と意思を社会へつなぐ回路を実装します。

セクション 3

【ブロック種類】 カラム(左:画像、右:本文)

見出し

課題地図

本文

課題地図では、社会に散在している悩みや摩擦を、Person・Business・Society の 3 領域に整理します。中心にあるのは「閉塞感」であり、その周囲にある進路不安、心理的安全性、地域支援、政策提言、人権、対話、評価制度などの論点を相互につながる課題として可視化します。

ボタン

- 課題地図を見る
- スライドを見る

画像指示

- 左に課題地図の図版を配置
- 推奨画像:
 - 全体俯瞰: <https://www.genspark.ai/api/files/s/sBhsNmdQ>
 - 3 領域詳細: <https://www.genspark.ai/api/files/s/r1Qgm8gU>

セクション 4

【ブロック種類】 グループ

見出し

事務局群とは

本文

事務局群とは、社会課題を受け止め、関係者をつなぎ、解決策・代替案・救済案を整理し、必要な相手へ届けるための実働の場です。単独の活動体ではなく、複数の専門事務局が互いに連携しながら動く「群れ」であることに意味があります。

ボタン

- 事務局群の仕組みを見る

画像指示

- 4 つの小アイコン横並び
 - 課題受け止め
 - SAR 編集
 - イベント実施
 - 導入支援

セクション 5

【ブロック種類】 グループ + 5 カラムまたはカードグリッド

見出し

ステークホルダー別入口

本文

このサイトは、誰にでも同じ言葉を投げるためのものではありません。個人、企業、自治体、NPO・地域団体、業界団体など、それぞれが抱える課題の位置に応じて、入口を用意しています。

ボタン

各カードに

- 詳細を見る

画像指示

- 5 枚カード
- アイコン付き
- モバイルでは縦積み

カード文言

- 個人の方へ
進路、孤立、対話、回復の入口

- 企業の方へ
心理的安全性、評価、公正、対話
- 自治体の方へ
制度横断、若者支援、参加型予算、人権
- NPO・地域団体の方へ
支援を提案・制度接続へ広げる
- 業界団体の方へ
業界課題を社会的テーマへ編み直す

セクション 6

[ブロック種類] タブ風グループ または 4 カラム

見出し

メニュー総覧

本文

私たちのメニューは、Person / Business / Society の 3 方向で構成されています。個人の支援、組織の設計、社会への接続を切り離さずに扱うことで、一つの課題を複数の角度から動かせるようにしています。

ボタン

- Person Menu
- Business Menu
- Society Menu
- イベントを見る

画像指示

- 各メニューに小さな色分け
 - Person: 橙
 - Business: 緑
 - Society: 青
 - Event: 紫またはグレー

セクション 7

[ブロック種類] カードグリッド

見出し

具体策ピックアップ

本文

起案者が用意するメニューの中核は、個人の伴走、組織の変化、社会への接続をまたぐ具体策です。進路相談、心理的安全性、若者支援、制度横断ナビゲーション、対話の場づくりなどを、単独施策ではなく事務局群の中で位置づけて展開します。

ボタン

- 施策一覧を見る

画像指示

- 4 カテゴリーカード推奨
- 各カードに 3~4 施策だけ掲載

カード内容

- Person
進路相談ホットライン / メンタルケア / 1on1 メンタリング / ライフプラン相談
- Business
心理的安全性ガイドライン策定 / 公正な評価制度 / フロー体験を生む業務設計 / 企業内パーパス策定支援
- Society
政策ウォッチング団体育成 / 若者支援アウトリーチ事業 / 制度横断ナビゲーション / 参加型予算編成
- Event
価値観ワークショップ / 哲学対話講座 / ワールドカフェ / 世代間対話セッション

セクション 8

[ブロック種類] グループ + 3 カラム

見出し

提案広場

本文

提案広場では、解決策だけでなく、代替案や救済案も同じ重さで扱います。社会課題に対して唯一の正解を求めるのではなく、いま必要な案、別の回路をつくる案、まず支える案を整理し、必要な現場へ届けることを重視します。

ボタン

- 提案する
- 提案を受け取る

画像指示

- 3 カラムカード
- S / A / R の大きな英字を表示

カード文言

- Solution
課題を直接改善する解決策
- Alternative
別の回路をつくる代替案
- Relief
いま必要な支えを届ける救済案

セクション 9

【ブロック種類】 カードスライダー または 4 カラム

見出し

イベント

本文

ワークショップや対話会は、単なる単発イベントではありません。参加の入口をつくり、問いを言葉にし、関係性を育て、提案を熟成させ、事務局活動へ接続するための実践の場です。

ボタン

- ・ 開催予定を見る
- ・ 共催を相談する

画像指示

- ・ 各イベント名をカード化
- ・ 写真を使う場合は対話・円卓・付箋・ホワイトボードなどの情景

カード例

- ・ 哲学対話講座
- ・ オンライン哲学カフェ
- ・ 価値観ワークショップ
- ・ 世代間対話セッション
- ・ ワールドカフェ等の場づくり

セクション 10

【ブロック種類】 Query Loop または カードグリッド

見出し

発起人 10 名

本文

本構想には 10 名の発起人がいます。ただし、このセクションの目的は顔ぶれの紹介ではありません。誰がどのテーマに関わり、どの事務局を担い、どんな相手と連携しようとしているのかを見える化することにあります。

ボタン

- ・ 発起人一覧を見る

画像指示

- ・ 10 カード
- ・ 顔写真がなければアイコンでも可
- ・ カード内に以下を表示
 - ・ 名前
 - ・ 一言
 - ・ 担当領域
 - ・ 詳細へ

セクション 11

【ブロック種類】 グループ + タイムライン風レイアウト

見出し

沿革・運営

本文

この構想は、長年にわたる自己実現というテーマの探究、試行錯誤、停滞、再起、道具化、講座化を経て現在に至っています。信頼形成のために必要なのは、実績の列挙だけではなく、何を考え、なぜ軌道修正し、何を残してきたかを示すことだと考えています。

ボタン

- ・ 沿革を見る

画像指示

- ・ 横タイムラインまたは縦タイムライン
- ・ 項目例：
 - ・ 着想
 - ・ 試行錯誤
 - ・ 停滞
 - ・ 再起
 - ・ 自己実現新論
 - ・ ツール群
 - ・ 事務局群構想

セクション 12

【ブロック種類】 カバー または グループ

見出し

嘆きを、創造の矢へ。

本文

このホームページは、賛同だけを募るためのものではありません。活用したい方、導入したい方、テーマを持ち寄りた方、共に事務局を立ち上げたい方に向けた実装の入口です。現状の嘆きを、次の構造をつくる力へ変えていくために、ご一緒できることを探したいと考えています。

ボタン

- ・ 相談する
- ・ 参加する
- ・ 資料を見る

画像指示

- 背景はシンプル
- 強い写真より余白重視
- ボタンが最も目立つように

2. 構想ページ

ページ名

構想

スラッグ

/concept

セクション 1

【ブロック種類】カバー

見出し

構想

本文

モデル無き社会打破事務局群は、「変わらない」と思われてきた社会の閉塞感に対し、100～300の専門事務局を群れとして立ち上げる構想です。

ボタン

- 課題地図を見る

画像指示

- ヒーロー背景は抽象的な接続図

セクション 2

【ブロック種類】グループ

見出し

なぜ、いま事務局群なのか

本文

社会には、すでに多くの制度、組織、支援、議論があります。

それでもなお、届かない声、こぼれ落ちる課題、分断されたままの現場が残り続けています。

私たちは、その原因の一つを「個人とシステムの距離」にあると考えます。

だからこそ、単独の団体や単発の施策ではなく、複数の専門事務局が連携する「群れ」というかたちを採ります。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なしでも可
- 図版を入れるなら「個人⇄組織⇄社会」の関係図

セクション 3

【ブロック種類】3 カラム

見出し

この構想の3つの柱

本文

1. 閉塞感の打破
2. 不安・孤立の解消
3. 個人とシステムの再接続

私たちは、この3点を理念にとどめず、事務局・メニュー・イベント・提案導線として具体化していきます。

ボタン

なし

画像指示

- トップの3つの柱と共通デザインにする

セクション 4

【ブロック種類】グループ

見出し

SAR とは何か

本文

SAR とは、Solution=解決策、Alternative Proposal=代替案、Relief Plan=救済案の頭文字です。

私たちは、社会課題を「正解探し」だけで扱うのではなく、解決策、代替案、救済案をそれぞれ整理し、必要な相手へ届くようにアレンジとコーディネートを行います。

ボタン

- 提案広場を見る

画像指示

- S / A / R を並べたシンプル図

セクション 5

【ブロック種類】グループ

見出し

このホームページが果たす役割

本文

このサイトは、構想の紹介だけを行う場所ではありません。

課題を可視化し、メニューを示し、発起人や連携先を募り、社会課題ニーズを抱くマーケットやターゲットへ届けるための実装基盤です。

ボタン

- 参加・連携を相談する

画像指示

- 画像なし可
-

3. 課題地図ページ

ページ名

課題地図

スラッグ

/issues

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

課題地図

本文

課題地図は、社会に散在している悩みや摩擦を、個人・組織・社会の3層に分けて見える化するための図です。

ボタン

- スライドを見る

画像指示

- 背景薄く、地図やネットワーク感のある抽象図
-

セクション 2

[ブロック種類] カラム(左画像、右本文)

見出し

中心にあるのは「閉塞感」

本文

モデル無き社会における閉塞感とは、方向が見えないこと、動いても届かないこと、関わり方が分からないことが重なって生まれる停滞です。

それは個人の問題であると同時に、組織の問題でもあり、社会構造の問題でもあります。

ボタン

なし

画像指示

- 使用推奨画像:
 - <https://www.genspark.ai/api/files/s/sBhsNmdQ>
-

セクション 3

[ブロック種類] 3 カラム

見出し

3つの領域

本文

一つの課題は、一つの領域だけに属するわけではありません。

進路不安、心理的安全性、地域支援、政策提言、人権、対話、評価制度などは、重なりあう構造として存在します。

ボタン

なし

画像指示

- 各カラムに色分け

カラム内容

- Person**
進路、自己理解、メンタルケア、孤立、学習支援、自己選択、ライフプラン
 - Business**
心理的安全性、評価制度、能力開発、動機づけ、対話、ハラスメント予防、職場設計
 - Society**
若者支援、政策ウォッチング、地域支援、制度横断ナビゲーション、人権、参加型予算、差別禁止、公共対話
-

セクション 4

[ブロック種類] 画像 + 段落

見出し

課題地図スライド

本文

課題地図の全体俯瞰、3領域マップ、参加から実装への流れは、図解スライドとしてご覧いただけます。

ボタン

- 課題地図スライドを見る

画像指示

- 使用推奨画像
 - 3領域詳細: <https://www.genspark.ai/api/files/s/r1Qgm8gU>
 - 参加から実装へ: <https://www.genspark.ai/api/files/s/HXpwhvb7>
 - Web 転用図版: <https://www.genspark.ai/api/files/s/0Sof1QFe>
 - スライド URL
 - <https://www.genspark.ai/agents?id=2003322d-c67c-4d50-99eb-27871402a0b7>
-

4. 事務局群ページ

ページ名

事務局群

スラッグ

/secretariats

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

事務局群

本文

モデル無き社会打破事務局群は、社会にある課題・ジレンマ・構造的な遠さに対して、100～300 の専門事務局を群れとして立ち上げる構想です。

ボタン

- ・ 参加方法を見る

画像指示

- ・ 構造図背景推奨
-

セクション 2

[ブロック種類] グループ

見出し

事務局とは何か

本文

事務局とは、単なる管理機能ではありません。

課題を整理し、関係者を集め、提案を編み、導入先へ届けるための「実働の場」です。

本構想では、各テーマごとに小さな事務局を立ち上げ、それらを群れとして運用します。

ボタン

なし

画像指示

- ・ 画像なし可
-

セクション 3

[ブロック種類] 4 カラム

見出し

事務局群の主な機能

本文

なし

ボタン

なし

画像指示

- ・ 各機能にアイコン

4 カラム内容

- ・ 課題の受け止め
 - ・ 当事者・関係者の接続
 - ・ SAR の編集
 - ・ 導入・連携支援
-

セクション 4

[ブロック種類] 段落 + 箇条書き

見出し

想定する事務局テーマ

本文

進路相談、メンタルケア、心理的安全性、対話研修、若者支援、政策ウォッチング、制度活用ナビゲーション、地域通貨、参加型予算、ファクトチェック、人権相談、学習支援など、社会課題ニーズに応じて事務局を設計します。

ボタン

- ・ 連携を相談する

画像指示

- ・ タグクラウド風でもよい
-

5. メニュー総覧ページ

ページ名

メニュー

スラッグ

/menu

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

メニュー

本文

私たちのメニューは、個人・組織・社会を切り離さずに動かすため、Person / Business / Society の 3 方向から構成されています。

ボタン

- Person Menu
- Business Menu
- Society Menu

画像指示

- 3色帯で表現

セクション 2

【ブロック種類】 3 カラム

見出し

3 方向のメニュー

本文

起案者が用意する具体的施策群を中心に、必要に応じて発起人や協力者のメニューを編み込みます。

ボタン

各カラムに「詳細を見る」

画像指示

- 各カラムにテーマ色

カラム内容

- **Person Menu**
自己理解、進路、回復、選択、対話
- **Business Menu**
活性化、心理的安全性、評価、公正、能力開発
- **Society Menu**
政策、地域支援、若者支援、制度横断、公共対話

セクション 3

【ブロック種類】 グループ

見出し

イベントとして展開するメニュー

本文

ワークショップ、対話会、哲学カフェ、世代間対話、学校・職場の対話プログラム、ワールドカフェ等は、テーマ別にイベントとして展開します。参加の入口として開きながら、実装テーマへ接続していきます。

ボタン

- イベントを見る

画像指示

- 対話風景写真または付箋・円卓の抽象図

6. Person Menu ページ

ページ名

Person Menu

スラッグ

/menu/person

セクション 1

【ブロック種類】 カバー

見出し

Person Menu

本文

Person Menu は、一人ひとりの自己理解、進路、回復、選択、対話を支えるためのメニューです。

ボタン

- 相談する
- イベントに参加する

画像指示

- 個人の背中を押す抽象的ビジュアル
- 相談風景でも可

セクション 2

【ブロック種類】 段落 + 箇条書き

見出し

主なメニュー

本文

- 探究学習の必修化
- 進路相談ホットライン
- メディアリテラシー教育
- 自己超越カリキュラム開発
- 1on1 メンタリング
- メンタルケア
- 価値観ワークショップ
- 若者支援アウトリーチ事業
- ひきこもり地域支援センター案内
- ライフプラン相談
- 制度活用ナビゲーター

- 段階的復職プログラム
- メンター制度
- 自己肯定感を育む教育プログラム
- 子ども向けキャリア対話会
- アサーション研修
- 学習支援
- 当事者会
- 対話練習プログラム
- 哲学相談

ボタン

- 個別相談を申し込む

画像指示

- 画像なしで可
 - カード一覧にしてもよい
-

セクション 3

[ブロック種類] グループ

見出し

このメニューが目指すこと

本文

Person Menu の目的は、個人を「支援の受け手」に固定することではありません。問いを持ち、選び、つながり、次の行動に移れる人を増やすことです。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可
-

7. Business Menu ページ

ページ名

Business Menu

スラッグ

/menu/business

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

Business Menu

本文

Business Menu は、組織の中にある閉塞感をほぐし、従事者の挑戦と成長、そしてよりよい職場環境の設計を支えるメニューです。

ボタン

- 導入を相談する

画像指示

- オフィス、会議、ホワイトボードなどの抽象的な現場感
-

セクション 2

[ブロック種類] 段落 + 箇条書き

見出し

主なメニュー

本文

- 心理的安全性ガイドライン策定
- 社外メンター紹介
- 能力開発投資
- フロー体験を生む業務設計
- 公正な評価制度
- 内発的動機を引き出す環境設計
- 関係性スキル研修
- リーダー向け対話研修
- 失敗共有会の制度化
- 企業内パーパス策定支援
- 無意識バイアス研修の必須化
- ハラスメント駆け込み導線
- 現場改善コンサル
- リーダー育成投資
- メンタリング
- 心理職による伴走

ボタン

- 説明を受ける
- 共同企画を相談する

画像指示

- 画像なし可
-

セクション 3

[ブロック種類] グループ

見出し

Business Menu の考え方

本文

組織の課題は、制度の課題であると同時に、関係性の課題でもあります。評価制度だけ変えても、対話がなければ定着しません。研修だけ行っても、業務設計が変わらなければ持続しません。Business Menu は、こうした分断を越えて、働く現場の実装に近づくメニューです。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可

8. Society Menu ページ

ページ名

Society Menu

スラッグ

/menu/society

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

Society Menu

本文

Society Menu は、業界や制度をまたいで社会に横たわる課題に対し、一人ひとりの挑戦と成長が届くようにするためのメニューです。

ボタン

- テーマを相談する
- 公共連携を相談する

画像指示

- 地域、公共空間、会議、まちの抽象写真

セクション 2

[ブロック種類] 段落 + 箇条書き

見出し

主なメニュー

本文

- 政策ウォッチング団体育成
- 若者支援アウトリーチ事業
- 地域通貨実証
- コミュニティ財団設立
- 共同事業マッチング
- コミュニティ参加
- 当事者参画委員会
- 多様性指標の第三者監査
- 学校外社会貢献単位の認定
- 人権相談ホットライン
- ファクトチェック団体育成
- 産学連携プロジェクト
- 政策提言ペーパー作成
- 制度横断ナビゲーション
- 参加型予算編成
- 差別禁止法制定
- 教育現場 SOGI 教育
- 贈与経済プログラム

ボタン

- 事務局設計を相談する

画像指示

- 画像なし可

セクション 3

[ブロック種類] グループ

見出し

Society Menu の目的

本文

Society Menu の目的は、社会課題を「誰かが解決するもの」として外在化することではありません。当事者、支援者、実務者、組織、地域、制度がつながり直すことで、社会の側に新しい回路をつくることです。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可

9. 提案広場ページ

ページ名

提案広場

スラッグ

/proposals

セクション1

[ブロック種類] カバー

見出し

提案広場

本文

提案広場は、モデル無き社会打破事務局群に集まる解決策・代替案・救済案を整理し、社会課題ニーズを抱く相手へ届けるためのページです。

ボタン

- 提案する
- 提案を受け取る

画像指示

- 付箋、対話、案を広げるイメージ
-

セクション2

[ブロック種類] 3 カラム

見出し

SARとは

本文

私たちは、提案を「正しいか間違っているか」だけで判断しません。どの課題に向けたものか、誰に届くべきか、どの事務局が扱うかを見ながら育てていきます。

ボタン

なし

画像指示

- S/A/R の大きな英字

カラム内容

- **S | 解決策**
課題に対して、直接的な改善や制度設計を行う案
 - **A | 代替案**
既存の仕組みだけでは届かないときに、新しい回路や別の選択肢をつくる案
 - **R | 救済案**
すでに困難の中にいる人や現場に、いますぐ必要な支援や緩衝材を届ける案
-

セクション3

[ブロック種類] グループ

見出し

主な提案分野

本文

教育、進路、メンタルケア、心理的安全性、評価制度、対話、若者支援、地域参加、政策提言、人権、公共性、制度横断、ファクトチェック、エンパワメント、ウェルビーイング など

ボタン

- 提案募集を見る

画像指示

- タグ一覧風でも可
-

10. イベントページ

ページ名

イベント

スラッグ

/events

セクション1

[ブロック種類] カバー

見出し

イベント

本文

イベントは、参加の入口であり、問いの形成の場であり、提案の熟成の場です。私たちは、ワークショップや対話会を単発消費にせず、事務局群の活動へ接続していきます。

ボタン

- 開催予定を見る
- 共催を相談する

画像指示

- 対話・円卓・グループワークのビジュアル
-

セクション2

[ブロック種類] カードグリッド

見出し

展開するイベント

本文

なし

ボタン

各カードに「詳細を見る」

画像指示

- ・ 1 カード 1 イベント名で OK

カード候補

- ・ 価値観ワークショップ
- ・ 哲学対話講座
- ・ オンライン哲学カフェ
- ・ 学校・職場の対話プログラム
- ・ ワールドカフェ等の場づくり
- ・ 世代間対話セッション
- ・ 子ども向けキャリア対話会
- ・ 保護者向け教育観アップデート講座
- ・ 対話ファシリテーター養成
- ・ リーダー向け対話研修
- ・ 当事者会
- ・ 失敗共有会

セクション 3

[ブロック種類] グループ

見出し

イベントの役割

本文

イベントは、参加者が「話して終わる」場ではありません。問いを見つける。他者と出会う。提案の種を持ち帰る。次の行動や事務局活動へつなげる。そのための場として設計します。

ボタン

- ・ 参加する
- ・ 企画を相談する

画像指示

- ・ 画像なし可

11. ツール群ページ

ページ名

ツール群

スラッグ

/tools

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

ツール群

本文

事務局群の活動を支えるのは、理念だけではありません。自己理解、構想化、可視化、提案編集を支えるために、3 つのツールを用意しています。

ボタン

- ・ ツールを試してみる
- ・ 相談する

画像指示

- ・ 3 ツールを並べた簡易図

セクション 2

[ブロック種類] 3 カラム

見出し

3 つのツール

本文

なし

ボタン

各カラムに「詳細を見る」

画像指示

- ・ 各ツールにアイコン

カラム内容

- ・ **リーダーシップマッピング**
自分や組織に備わっている「人と物事を動かす力」の配分を可視化するツールです。
- ・ **未来構想書**
アイデアや挑戦を、未来に向けた提案としてまとめるためのツールです。
- ・ **ヒューマンキャンバス**
志、強み、欲求、スキル、活動、関心、壁、機会、縁を整理するためのツールです。

セクション 3

[ブロック種類] グループ

見出し

ツールの役割

本文

ツールは、単なる診断や記録のためにあるものではありません。事務局群が扱うテーマ、イベントで生まれる問い、提案広場に集まる案を、より届くかたちへ編集するための実務の道具です。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可
-

12. 発起人ページ

ページ名

発起人

スラッグ

/founders

セクション 1

[ブロック種類] カバー

見出し

発起人

本文

本構想には 10 名の発起人がいます。発起人それぞれが、どのテーマを担い、どのメニューに関わり、どのように事務局群の立ち上げに寄与するかを見える化します。

ボタン

- 参加を相談する

画像指示

- 10 名集合ビジュアルがなければ抽象図でも可
-

セクション 2

[ブロック種類] グループ

見出し

発起人の役割

本文

発起人は、構想への賛同者であるだけでなく、テーマの担い手であり、問いの持ち主であり、事務局づくりの当事者です。思想や専門性が異なっても、閉塞感を前にして立ち止まるのではなく、新しい回路をつくるために集まっています。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可
-

セクション 3

[ブロック種類] Query Loop または カードグリッド

見出し

発起人一覧

本文

なし

ボタン

各カードに「詳細を見る」

画像指示

- カード内要素
 - 名前
 - 担当テーマ
 - 関与する事務局
 - 提供可能メニュー
-

セクション 4

[ブロック種類] グループ

見出し

起案者メニューを中心に編成します

本文

本サイトでは、起案者が用意するメニューを中核に据えます。そのうえで、発起人ごとの経験や視点が、事務局群のテーマやイベントに編み込まれるように設計します。

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可
-

13. 沿革・運営ページ

ページ名

沿革・運営
スラッグ
/about

セクション 1

【ブロック種類】 カバー

見出し

沿革・運営

本文

この構想は、突然現れたものではありません。自己実現というテーマをめぐる長年の試行錯誤、停滞、再起、編集、講座化、道具化を経て、2026年の「モデル無き社会打破事務局群」へと接続しています。

ボタン

- ・ 構想を見る

画像指示

- ・ 年表や資料写真があれば使用
-

セクション 2

【ブロック種類】 グループ

見出し

着想から現在まで

本文

本構想の背景には、自己実現というテーマを、静的な理想ではなく、社会へ届く動的な設計として捉え直してきた経緯があります。その過程では、構想の停滞や活動の凍結もありました。しかし、それらを経たからこそ、理念だけでなく部品や道具や導線として整える発想に至っています。

ボタン

なし

画像指示

- ・ タイムライン推奨
-

セクション 3

【ブロック種類】 グループ

見出し

透明性について

本文

私たちは、順調な実績だけで信頼を得ようとは考えません。着想、試行錯誤、軌道修正、停滞、再起、成果物。これらのプロセスをできるだけ開示し、信頼形成につなげます。

ボタン

- ・ 資料を見る

画像指示

- ・ PDF・講座・ツール等の成果物リンクを並べる
-

セクション 4

【ブロック種類】 箇条書き

見出し

運営の基本方針

本文

- ・ 個人・組織・社会を分断しない
- ・ 当事者性を尊重する
- ・ 問いを持つ人を排除しない
- ・ 正解だけでなく、代替案と救済案も扱う
- ・ 活動のプロセスを見える化する
- ・ 単発で終わらない導線を設計する

ボタン

なし

画像指示

- ・ 画像なし可
-

14. 参加・問い合わせページ

ページ名

参加・問い合わせ

スラッグ

/contact

セクション 1

【ブロック種類】 カバー

見出し

参加・問い合わせ

本文

この構想は、閲覧して終わるためのものではありません。参加したい方、活用したい方、導入したい方、共催したい方、提案したい方へ、それぞれの入口を用意しています。

ボタン

- ・ 相談フォームへ

- 提案フォームへ

画像指示

- 余白重視、フォーム導線が主役
-

セクション 2

【ブロック種類】 箇条書き

見出し

こんな方に開いています

本文

- 発起人として関わりたい
- 特定テーマの事務局を立ち上げたい
- Person / Business / Society Menu を導入したい
- イベントを共催したい
- 提案や課題を持ち込みたい
- 支援、教育、企業、行政、地域の立場から連携したい

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可
-

セクション 3

【ブロック種類】 箇条書き

見出し

主な問い合わせ内容

本文

- 構想全体について知りたい
- 課題地図を見ながら相談したい
- メニュー導入を検討したい
- ワークショップや対話会を開催したい
- 提案広場へ案を出したい
- 発起人や協力者として参加したい

ボタン

なし

画像指示

- 画像なし可
-

セクション 4

【ブロック種類】 グループ

見出し

まずは対話から

本文

私たちは、いきなり結論だけを求めません。

まずは、何に歯がゆさを感じているのか、どこに遠さを感じているのか、そこからお聞かせください。

対話の中で、どのメニューや事務局が接続可能かを一緒に整理します。

ボタン

- 問い合わせる

画像指示

- フォーム直前に配置
 - 背景色を少し変えて目立たせる
-

15. ステークホルダー別ページの共通テンプレート

これは

- 個人向け
 - 企業向け
 - 自治体向け
 - NPO・地域団体向け
 - 業界団体向け
- に共通で使えます。
-

共通セクション 1

【ブロック種類】 カバー

見出し

(対象名)の方へ

本文

(対象)に向けて、課題の見立て、使えるメニュー、連携可能なテーマ、導入の入口をご紹介します。

ボタン

- 相談する

画像指示

- 対象に応じた抽象写真
-

個人向け本文

進路、孤立、回復、学び直し、自己理解、対話。あなたが抱えている課題は、あなた一人だけの問題ではありません。Person Menu や イベントを通して、次の行動につながる入口をひらきます。

企業向け本文

心理的安全性、評価、公正、対話、能力開発、パーパス。組織の中にある閉塞感を、現場に届く仕組みに変えていくためのメニューをご提案します。

自治体向け本文

若者支援、制度横断、参加型予算、人権、対話、地域接続。制度の隙間にある課題に対し、現場と政策をつなぐ補完的な回路を設計します。

NPO・地域団体向け本文

支援の現場で見えている声を、単発の支援で終わらず、提案・連携・制度接続へ進めるための事務局設計をご一緒します。

業界団体向け本文

業界固有の課題を閉じた問題にせず、社会全体の変化や次世代の参加につながるテーマとして編み直す支援を行います。

16. 実装メモ

WordPress ブロックエディタで組む場合、基本はこの対応で十分です。

書いてある部品	Gutenberg で使うブロック
カバー	Cover
グループ	Group
3 カラム/4 カラム	Columns
見出し	Heading
本文	Paragraph
箇条書き	List
ボタン	Buttons
画像指示	Image / Cover / Media & Text
発起人一覧	Query Loop
提案一覧	Query Loop
イベント一覧	Query Loop

必要であれば次に、これをさらに実務向けにして、

1. 1 ページずつ完全プレーンテキスト化
2. WordPress のブロック HTML コメント付き形式
3. 固定ページごとのコピペ原稿だけを抽出した版

のどれかに整えます。

必要なら次は「トップページだけ完全コピペ版」から作ります。

AI原稿→私も眺めて、バランスを見てみます

これまで読み込ませた起案を進めて、モデル無き社会打破事務局群の発足を示すホームページを制作します。充実版をベースに部品としての原稿を用意したいと思っています。

発起人は10名居ますが、起案者が用意するメニューを主にします。

解決策・代替案・救済案は、下記を中心に揃えます。

ワークショップや、対話会はイベントとして展開します。

- ・探究学習の必修化
- ・進路相談ホットライン
- ・心理的安全性ガイドライン策定
- ・メディアリテラシー教育
- ・自己超越カリキュラム開発
- ・1on1メンタリング
- ・心理的安全性ガイドライン
- ・社外メンター紹介
- ・政策ウォッチング団体育成
- ・メンタルケア
- ・価値観ワークショップ
- ・若者支援アウトリーチ事業
- ・ひきこもり地域支援センター案内
- ・グローバルリスク評価標準化
- ・能力開発投資
- ・フロー体験を生む業務設計
- ・心理職による伴走
- ・メンタリング
- ・学校カウンセラー配置強化
- ・行動につながるマイクロアクション設計
- ・ウェルビーイング指標導入
- ・地域通貨実証
- ・ライフプラン相談
- ・制度活用ナビゲーター
- ・段階的復職プログラム
- ・公正な評価制度
- ・メンター制度
- ・内発的動機を引き出す環境設計
- ・関係性スキル研修
- ・評価基準を「正解」から「問い」へ転換
- ・当事者ストーリー教材開発
- ・学習支援
- ・当事者会
- ・対話ファシリテーター養成
- ・スクールソーシャルワーカー連携
- ・対話練習プログラム
- ・リーダー向け対話研修
- ・哲学対話講座
- ・オンライン哲学カフェ
- ・哲学相談
- ・失敗共有会の制度化
- ・キャリア相談
- ・コミュニティ財団設立
- ・金融教育
- ・プッシュ型通知
- ・就労準備プログラム
- ・エンパワメント教育
- ・女性向けエンパワメント講座
- ・共同事業マッチング
- ・コミュニティ参加
- ・自己選択を促す制度
- ・無意識バイアス研修の必須化
- ・ハラスメント駆け込み導線
- ・保護者向け教育観アップデート講座
- ・自己肯定感を育む教育プログラム
- ・学校・職場の対話プログラム
- ・企業内パーパス策定支援
- ・当事者参画委員会
- ・アクセラレーションプログラム

- ・多様性指標の第三者監査
- ・子ども向けキャリア対話会
- ・学校外社会貢献単位の認定
- ・アサーション研修
- ・紛争予防プロトコル整備
- ・学校での情報モラル教育
- ・アート×哲学プログラム
- ・リーダー育成投資
- ・ワールドカフェ等の場づくり
- ・人権相談ホットライン
- ・ファクトチェック団体育成
- ・産学連携プロジェクト
- ・政策提言ペーパー作成
- ・制度横断ナビゲーション
- ・個別配慮プラン作成
- ・世代間対話セッション
- ・アクセラレーションプログラム
- ・多様性指標の第三者監査
- ・子ども向けキャリア対話会
- ・学校外社会貢献単位の認定
- ・アサーション研修
- ・紛争予防プロトコル整備
- ・学校での情報モラル教育
- ・リーダー育成投資
- ・参加型予算編成
- ・差別禁止法制定
- ・教育現場 SOGI 教育
- ・贈与経済プログラム
- ・現場改善コンサル

各ページの原稿案を提案し、その原稿案を各ページごとにテキストとして出力ください。
課題地図については、図案をスライドに出力して提供ください。
ツールを使用する

ここから、AI が働いた原稿です。私のアレンジは当然加えます。



大きな文書を要約

このオファー文書に含まれる勧誘文の主要パターン、繰り返し使われる中核メッセージ、相手に伝えるべき 3 つの柱、SAR(解決策・代替案・救済案)の位置づけ、そしてホームページの案内文に転用しやすい表現を要約してください。

エージェントを表示

ツールを使用する

|

並列読み取り

<https://aboutyou.tokyo/nomodel001>

<https://aboutyou.tokyo/menu>

<https://aboutyou.tokyo/tool>

<https://aboutyou.tokyo/lessons>

<https://aboutyou.tokyo/aboutus>

エージェントを表示

エージェントが作業中

|

AI スライド

モデル無き社会打破事務局群_課題地図スライド

エージェントを表示

承知しました。『モデル無き社会打破事務局群』ホームページ用の課題地図スライドを作成します。公共性・構造化・実装感を意識した、白背景+深い青・緑・オレンジのアクセントで構成します。

ツールを使用する

|

深い思考

合計: 6 件の ToDo

残り 6 件の ToDo

manifest.json と playlist の骨組み作成

1 枚目: 全体俯瞰『課題地図』

2 枚目: 3 領域詳細マップ (Person/Business/Society)

3 枚目: 参加から実装へのフロー

4 枚目: HP 転用向けシンプル図版

verify: check_slide_layout + screenshot

ツールを使用する
}
共通 CSS を定義した上で 4 枚を並列で書き出します。

|
スライドレイアウトを確認
4 枚の幾何検証
ツールを使用する

|
プレゼンテーション
4 枚の見たい目確認
4 枚のスライドをキャプチャしました

ビジュアルを確認しました。全 4 枚とも構造は意図通りに描けています。検出された問題点は以下:

スライド 1 (overview-map): 右上の「閉塞感の打破/不安・孤立の解消/個人とシステムの再接続」の <p> テキストがバッジ右端からはみ出して、サブタイトル「『モデル無き社会』～」と一部重なっています。

スライド 3 (participation-flow): SVG 矢印レイヤーが z-index:7 で他のカードを覆い隠してしまっています(geometry でも el[35] が全要素と重なる)。実画像でも矢印そのものが小さすぎて見えません。

スライド 4 (homepage-figure): 下端の罫線(y=960)が「社会」ラベル(y=960)と完全に重なっており、社会の文字が罫線に被っています。また下部キャプション(y=992)も Society ラベルと近すぎ。

30 100~300 の専門事務局が、個人・組織・社会のひずみを
解決策・代替案・救済案として届け合う。
その通り、MultiEdit がロールバックされた状態でした。改めて適用します。

構成

スライド役割

01 全体俯瞰 — 課題地図 中心に『閉塞感』、周囲に Person/Business/Society、外周に代表施策群、上段に SAR フレーム、右上に 3 本柱

02 3 領域詳細マップ Person/Business/Society を 3 カラムで「課題→施策→期待変化」の 3 段構成で並列表示

03 参加から実装へ 5 ステップフロー(対話→問い→SAR→事務局→ステークホルダー)+対話の場が担う 4 機能+SAR 定義

04 HP 転用向け図版 3 円ベン図で「再接続」を中心に表現、左に 3 本柱/右に SAR、ヒーロー画像として使える 1 枚

確認用プレビュー

以下に、「モデル無き社会打破事務局群」ホームページ充実版をベースにした、各ページの部品原稿案を、そのまま WordPress の固定ページや下層ページに流し込みやすいテキスト形式でまとめます。

また、課題地図スライドは作成用プロジェクトを起こしてあります。

確認・編集用のスライド URL はこちらです。

課題地図スライド(編集・確認)

プレビュー画像もあります。

スライド 1 全体俯瞰

スライド 2 3 領域詳細

スライド 3 参加から実装へ

スライド 4 Web 転用向け図版

今回の原稿は、これまでの起案文・オファー文・既存 about You の構成を踏まえ、

「閉塞感の打破」「不安・孤立の解消」「個人とシステムの再接続」、

そして SAR=解決策・代替案・救済案 を中核に据えて再構成しています。Source Source

また、メニューは Person / Business / Society を軸にしつつ、起案者が用意する具体的施策群を主として配置する前提で編集しています。Source

0. 全体トーン的前提

以下の原稿は、すべて

「賛同を募るだけでなく、活用・導入・参加に進める」

ためのトーンで統一しています。

抽象理念だけで終わらせない

個人・組織・社会を分断せずに扱う

ワークショップや対話会は「イベント」ではなく「参加と実装の入口」として位置づける

発起人 10 名はいるが、サイトの主役は「起案者が用意するメニューと仕組み」

解決策・代替案・救済案を、実務的に整理し届ける「事務局群」として示す

1. TOP ページ原稿案

ページタイトル

モデル無き社会打破事務局群

ヒーロー見出し

個人の手と力が、社会に届く道筋をつくる。

ヒーローサブコピー

「モデル無き社会」の閉塞感を打破するために。

私たちは、100~300の専門事務局を群れとして立ち上げ、
社会に横たわるひずみやジレンマへ、
解決策・代替案・救済案を編み、届け、実装へ近づけます。 Source Source

CTA

構想を読む

メニューを見る

参加・連携を相談する

セクション1 見出し

この構想が挑むもの

本文

私たちが向き合うのは、単なる個別課題ではありません。

意思決定や資源分配のかたちによって生じている、社会のひずみ、ジレンマ、構造的な遠さです。

その結果として、個人は孤立し、組織は閉塞し、社会は「変えられないもの」として固定されていきます。

モデル無き社会打破事務局群は、この遠さを縮め、一人ひとりの歯がゆさを社会に届く提案へ変えていくための受け皿です。 Source

セクション2 見出し

3つの柱

本文

閉塞感の打破

硬直化した仕組みに風穴を開ける実働部隊を増やします。

不安・孤立の解消

制度や組織からこぼれ落ちやすい不安に対し、支援と接続の場を重ねます。

個人とシステムの再接続

「声はあるのに届かない」という距離を縮め、代替ルートを実装します。 Source Source

セクション3 見出し

メニューは3方向から動きます

本文

Personでは、自己理解、進路、対話、メンタルケア、伴走を。

Businessでは、心理的安全性、評価制度、能力開発、関係性設計を。

Societyでは、政策ウォッチング、地域支援、制度横断ナビゲーション、対話の場づくりを進めます。

個人・組織・社会を切り離さず、同時に動かすことがこの事務局群の特徴です。 Source

セクション4 見出し

イベントは参加の入口です

本文

ワークショップ、対話会、哲学カフェ、世代間対話、ワールドカフェ。

これらは単なる単発イベントではありません。

問いを育て、提案を熟成し、協働の起点をつくるための実践の場です。

セクション5 見出し

私たちにできること

本文

解決策の設計

代替案の編集

救済案の整理

導入先に応じたコーディネート

学校・企業・地域・当事者との接続

発起人・連携先・実装先の編成

最終CTA 見出し

嘆きを、創造の矢へ。

最終CTA 本文

この構想は、賛同を募るだけのページではありません。

活用したい方、導入したい方、連携したい方、共に立ち上げたい方に向けた実装の入口です。 Source

2. 構想ページ原稿案

ページタイトル

構想

リード

モデル無き社会打破事務局群は、「変わらない」と思われてきた社会の閉塞感に対し、100～300の専門事務局を群れとして立ち上げる構想です。目的は、個人・組織・社会のあいだに生じた距離を縮め、解決策・代替案・救済案を現実が届くかたちへ編み直すことにあります。Source

セクション1 見出し

なぜ、いま事務局群なのか

本文

社会には、すでに多くの制度、組織、支援、議論があります。それでもなお、届かない声、こぼれ落ちる課題、分断されたままの現場が残り続けています。私たちは、その原因の一つを「個人とシステムの距離」にあると考えます。だからこそ、単独の団体や単発の施策ではなく、複数の専門事務局が連携する「群れ」というかたちを採ります。Source

セクション2 見出し

この構想の3つの柱

本文

閉塞感の打破
不安・孤立の解消
個人とシステムの再接続
私たちは、この3点を理念にとどめず、事務局・メニュー・イベント・提案導線として具体化していきます。Source

セクション3 見出し

SARとは何か

本文

SARとは、
Solution=解決策
Alternative Proposal=代替案
Relief Plan=救済案
の頭文字です。

私たちは、社会課題を「正解探し」だけで扱うのではなく、解決策、代替案、救済案をそれぞれ整理し、必要な相手へ届くようにアレンジとコーディネートを行います。Source

セクション4 見出し

このホームページが果たす役割

本文

このサイトは、構想の紹介だけを行う場所ではありません。課題を可視化し、メニューを示し、発起人や連携先を募り、社会課題ニーズを抱くマーケットやターゲットへ届けるための実装基盤です。

3. 課題地図ページ原稿案

ページタイトル

課題地図

リード

課題地図は、社会に散在している悩みや摩擦を、個人・組織・社会の3層に分けて見える化するための図です。私たちは、課題を単独の問題としてではなく、相互に連動する構造として捉えます。

セクション1 見出し

中心にあるのは「閉塞感」

本文

モデル無き社会における閉塞感とは、方向が見えないこと、動いても届かないこと、関わり方が分からないことが重なって生まれる停滞です。それは個人の問題であると同時に、組織の問題でもあり、社会構造の問題でもあります。

セクション 2 見出し 3つの領域

本文
Person
進路、自己理解、メンタルケア、孤立、学習支援、自己選択、ライフプラン

Business
心理的安全性、評価制度、能力開発、動機づけ、対話、ハラスメント予防、職場設計

Society
若者支援、政策ウォッチング、地域支援、制度横断ナビゲーション、人権、参加型予算、差別禁止、公共対話

セクション 3 見出し 課題地図の見方

本文
一つの課題は、一つの領域だけに属するわけではありません。
たとえば、進路不安は教育の問題であると同時に、就労の問題であり、地域の支援導線の問題でもあります。
課題地図は、その重なりを見つけ、どこに事務局を置き、どこにメニューを差し込むかを考えるための土台です。

セクション 4 見出し 課題地図スライド

本文
課題地図の全体俯瞰、3領域マップ、参加から実装への流れは、図解スライドとしてご覧いただけます。
課題地図スライドを見る

4. 事務局群ページ原稿案 ページタイトル 事務局群

リード
モデル無き社会打破事務局群は、
社会にある課題・ジレンマ・構造的な遠さに対して、
100～300の専門事務局を群れとして立ち上げる構想です。
それぞれの事務局は独立して動くのではなく、相互につながりながら機能します。Source

セクション 1 見出し 事務局とは何か

本文
事務局とは、単なる管理機能ではありません。
課題を整理し、関係者を集め、提案を編み、導入先へ届けるための「実働の場」です。
本構想では、各テーマごとに小さな事務局を立ち上げ、それらを群れとして運用します。

セクション 2 見出し 事務局群の主な機能

本文
課題の受け止め
当事者・関係者の接続
解決策・代替案・救済案の編集
ワークショップや対話会の開催
提案先への導入支援
連携主体の編成
セクション 3 見出し
想定する事務局テーマ

本文
進路相談、メンタルケア、心理的安全性、対話研修、若者支援、政策ウォッチング、制度活用ナビゲーション、地域通貨、参加型予算、ファクトチェック、人権相談、学習支援など、社会課題ニーズに応じて事務局を設計します。

セクション 4 見出し 群れである意味

本文

一つのテーマだけでは届かない相手があります。
一つの制度だけでは救えない場面があります。
だからこそ、複数の事務局が互いの視点と資源を持ち寄る「群れ」であることに意味があります。

5. メニュー総覧ページ原稿案

ページタイトル

メニュー

リード

私たちのメニューは、個人・組織・社会を切り離さずに動かすため、
Person / Business / Society の3方向から構成されています。
起案者が用意する具体的な施策群を中心に、必要に応じて発起人や協力者のメニューを編み込みます。Source

セクション1 見出し

Person Menu

本文

個人が抱く不安、進路、孤立、自己理解、回復、対話への必要に応えるメニューです。
自己選択と行動の起点を支えます。

セクション2 見出し

Business Menu

本文

組織の閉塞感、評価、心理的安全性、関係性、能力開発、パーパス形成に働きかけるメニューです。
従事者の挑戦と成長を引き出す組織づくりを支えます。Source

セクション3 見出し

Society Menu

本文

制度の隙間、地域課題、政策提言、若者支援、人権、参加、公共対話に向き合うメニューです。
個人の声を社会に届く提案へ編み直します。Source

セクション4 見出し

イベントとして展開するメニュー

本文

ワークショップ、対話会、哲学カフェ、世代間対話、学校・職場の対話プログラム、ワールドカフェ等は、テーマ別にイベントとして展開します。
参加の入口として開きながら、実装テーマへ接続していきます。

6. Person Menu ページ原稿案

ページタイトル

Person Menu

リード

Person Menu は、一人ひとりの自己理解、進路、回復、選択、対話を支えるためのメニューです。
「どう生きたいか」「どこへ進みたいか」「今の自分に何が必要か」を、個人の責任だけに押し返さず、社会との接続の中で捉え直します。
Source

セクション見出し

主なメニュー

本文

探究学習の必修化
進路相談ホットライン
メディアリテラシー教育
自己超越カリキュラム開発
1on1 メンタリング
メンタルケア
価値観ワークショップ
若者支援アウトリーチ事業
ひきこもり地域支援センター案内
ライフプラン相談
制度活用ナビゲーター
段階的復職プログラム
メンター制度

自己肯定感を育む教育プログラム
子ども向けキャリア対話会
アサーション研修
学習支援
当事者会
対話練習プログラム
哲学相談
セクション 2 見出し
このメニューが目指すこと

本文

Person Menu の目的は、個人を「支援の受け手」に固定することではありません。
問いを持ち、選び、つながり、次の行動に移れる人を増やすことです。

CTA

相談する / イベントに参加する / 連携する

7. Business Menu ページ原稿案

ページタイトル

Business Menu

リード

Business Menu は、組織の中にある閉塞感をほぐし、
従事者の挑戦と成長、そしてよりよい職場環境の設計を支えるメニューです。
未来構想、心理的安全性、評価、公正、対話、能力開発を横断的に扱います。Source

セクション見出し

主なメニュー

本文

心理的安全性ガイドライン策定
社外メンター紹介
能力開発投資
フロー体験を生む業務設計
公正な評価制度
内発的動機を引き出す環境設計
関係性スキル研修
リーダー向け対話研修
失敗共有会の制度化
企業内パーパス策定支援
無意識バイアス研修の必須化
ハラスメント駆け込み導線
現場改善コンサル
リーダー育成投資
メンタリング
心理職による伴走
セクション 2 見出し
Business Menu の考え方

本文

組織の課題は、制度の課題であると同時に、関係性の課題でもあります。
評価制度だけ変えても、対話がなければ定着しません。
研修だけ行っても、業務設計が変わらなければ持続しません。
Business Menu は、こうした分断を越えて、働く現場の実装に近づくメニューです。

CTA

導入を相談する / 説明を受ける / 共同企画を相談する

8. Society Menu ページ原稿案

ページタイトル

Society Menu

リード

Society Menu は、業界や制度をまたいで社会に横たわる課題に対し、
一人ひとりの挑戦と成長が届くようにするためのメニューです。
テーマ別の事務局、SAR の編集、公共的な対話の場を組み合わせで進めます。Source

セクション見出し

主なメニュー

本文

政策ウォッチング団体育成
若者支援アウトリーチ事業
地域通貨実証
コミュニティ財団設立
共同事業マッチング
コミュニティ参加
当事者参画委員会
多様性指標の第三者監査
学校外社会貢献単位の認定
人権相談ホットライン
ファクトチェック団体育成
産学連携プロジェクト
政策提言ペーパー作成
制度横断ナビゲーション
参加型予算編成
差別禁止法制定
教育現場 SOGI 教育
贈与経済プログラム
セクション 2 見出し
Society Menu の目的

本文

Society Menu の目的は、社会課題を「誰かが解決するもの」として外在化することではありません。
当事者、支援者、実務者、組織、地域、制度がつながり直すことで、社会の側に新しい回路をつくることです。

CTA

テーマを相談する / 事務局設計を相談する / 公共連携を相談する

9. 提案広場ページ原稿案

ページタイトル

提案広場

リード

提案広場は、モデル無き社会打破事務局群に集まる
解決策・代替案・救済案 を整理し、社会課題ニーズを抱く相手へ届けるためのページです。
ここでは、アイデアを並べるだけでなく、実装可能性や接続先もあわせて考えます。

セクション 1 見出し

SAR とは

本文

S | 解決策 Solution

課題に対して、直接的な改善や制度設計を行う案

A | 代替案 Alternative Proposal

既存の仕組みだけでは届かないときに、新しい回路や別の選択肢をつくる案

R | 救済案 Relief Plan

すでに困難の中にいる人や現場に、いますぐ必要な支援や緩衝材を届ける案 Source

セクション 2 見出し

どのように提案を扱うか

本文

私たちは、提案を「正しいか間違っているか」だけで判断しません。

どの課題に向けたものか。

誰に届くべきか。

どの事務局が扱うか。

イベントや対話会で熟成すべきか。

こうした視点を加えながら、提案を育てていきます。

セクション 3 見出し

主な提案分野

本文

教育、進路、メンタルケア、心理的安全性、評価制度、対話、若者支援、地域参加、政策提言、人権、公共性、制度横断、ファクトチェック、エンパワメント、ウェルビーイング など

CTA

提案する / 提案を受け取る / 連携する

10. イベントページ原稿案

ページタイトル

イベント

リード

イベントは、参加の入口であり、問いの形成の場であり、提案の熟成の場です。
私たちは、ワークショップや対話会を単発消費にせず、事務局群の活動へ接続していきます。

セクション見出し

展開するイベント

本文

価値観ワークショップ

哲学対話講座

オンライン哲学カフェ

学校・職場の対話プログラム

ワールドカフェ等の場づくり

世代間対話セッション

子ども向けキャリア対話会

保護者向け教育観アップデート講座

対話ファシリテーター養成

リーダー向け対話研修

当事者会

失敗共有会

セクション 2 見出し

イベントの役割

本文

イベントは、参加者が「話して終わる」場ではありません。

問いを見つける。

他者と出会う。

提案の種を持ち帰る。

次の行動や事務局活動へつなげる。

そのための場として設計します。

CTA

開催予定を見る / 企画を相談する / 共催を相談する

11. ツール群ページ原稿案

ページタイトル

ツール群

リード

事務局群の活動を支えるのは、理念だけではありません。

自己理解、構想化、可視化、提案編集を支えるために、

3つのツールを用意しています。Source

セクション 1 見出し

リーダーシップマッピング

本文

自分や組織に備わっている「人と物事を動かす力」の配分を可視化するツールです。

個人の自己説明にも、チーム編成や組織分析にも活用できます。Source

セクション 2 見出し

未来構想書

本文

アイデアや挑戦を、未来に向けた提案としてまとめるためのツールです。

履歴や肩書だけでは届かない構想を、他者に渡せるかたちへ整えます。Source

セクション 3 見出し

ヒューマンキャンバス

本文

志、強み、欲求、スキル、活動、関心、壁、機会、縁を整理し、自分や相手の現在地と未来像を言語化するためのツールです。Source

セクション 4 見出し ツールの役割

本文

ツールは、単なる診断や記録のためにはありません。事務局群が扱うテーマ、イベントで生まれる問い、提案広場に集まる案を、より届くかたちへ編集するための実務の道具です。

12. 発起人ページ原稿案

ページタイトル

発起人

リード

本構想には 10 名の発起人がいます。
ただし、このページの目的は、顔ぶれを並べることではありません。
発起人それぞれが、どのテーマを担い、どのメニューに関わり、
どのように事務局群の立ち上げに寄与するかを見える化することにあります。

セクション 1 見出し 発起人の役割

本文

発起人は、構想への賛同者であるだけでなく、
テーマの担い手であり、問いの持ち主であり、事務局づくりの当事者です。
思想や専門性が異なっても、閉塞感を前にして立ち止まるのではなく、
新しい回路をつくるために集まっています。Source

セクション 2 見出し このページで示すこと

本文

担当テーマ
関与する事務局
提供可能なメニュー
関心のある連携先
参加・協働の相談窓口
セクション 3 見出し
起案者メニューを中心に編成します

本文

本サイトでは、起案者が用意するメニューを中核に据えます。
そのうえで、発起人ごとの経験や視点が、事務局群のテーマやイベントに編み込まれるように設計します。

13. 沿革・運営ページ原稿案

ページタイトル

沿革・運営

リード

この構想は、突然現れたものではありません。
自己実現というテーマをめぐる長年の試行錯誤、停滞、再起、編集、講座化、道具化を経て、
2026 年の「モデル無き社会打破事務局群」へと接続しています。Source

セクション 1 見出し 着想から現在まで

本文

本構想の背景には、自己実現というテーマを、静的な理想ではなく、
社会へ届く動的な設計として捉え直してきた経緯があります。
その過程では、構想の停滞や活動の凍結もありました。
しかし、それらを経たからこそ、理念だけでなく部品や道具や導線として整える発想に至っています。Source

セクション 2 見出し

透明性について

本文

私たちは、順調な実績だけで信頼を得ようとは考えません。
着想、試行錯誤、軌道修正、停滞、再起、成果物。
これらのプロセスをできるだけ開示し、信頼形成につなげます。Source

セクション 3 見出し
運営の基本方針

本文

個人・組織・社会を分断しない
当事者性を尊重する
問いを持つ人を排除しない
正解だけでなく、代替案と救済案も扱う
活動のプロセスを見える化する
単発で終わらない導線を設計する
14. 参加・問い合わせページ原稿案
ページタイトル
参加・問い合わせ

リード

この構想は、閲覧して終わるためのものではありません。
参加したい方、活用したい方、導入したい方、共催したい方、提案したい方へ、
それぞれの入口を用意しています。

セクション 1 見出し
こんな方に開いています

本文

発起人として関わりたい
特定テーマの事務局を立ち上げたい
Person / Business / Society Menu を導入したい
イベントを共催したい
提案や課題を持ち込みたい
支援、教育、企業、行政、地域の立場から連携したい
セクション 2 見出し
主な問い合わせ内容

本文

構想全体について知りたい
課題地図を見ながら相談したい
メニュー導入を検討したい
ワークショップや対話会を開催したい
提案広場へ案を出したい
発起人や協力者として参加したい
セクション 3 見出し
まずは対話から

本文

私たちは、いきなり結論だけを求めません。
まずは、何に歯がゆさを感じているのか、どこに遠さを感じているのか、
そこからお聞かせください。
対話の中で、どのメニューや事務局が接続可能かをご一緒に整理します。

15. ステークホルダー別ページの短文原稿

個人向け

進路、孤立、回復、学び直し、自己理解、対話。
あなたが抱えている課題は、あなた一人だけの問題ではありません。
Person Menu やイベントを通して、次の行動につながる入口をひらきます。

企業向け

心理的安全性、評価、公正、対話、能力開発、パーパス。
組織の中にある閉塞感を、現場に届く仕組みに変えていくためのメニューをご提案します。

自治体向け

若者支援、制度横断、参加型予算、人権、対話、地域接続。
制度の隙間にある課題に対し、現場と政策をつなぐ補完的な回路を設計します。

NPO・地域団体向け

支援の現場で見えている声を、単発の支援で終わらず、
提案・連携・制度接続へ進めるための事務局設計をご一緒します。

業界団体向け

業界固有の課題を閉じた問題にせず、
社会全体の変化や次世代の参加につながるテーマとして編み直す支援を行います。

16. 施策一覧ページの冒頭文案

このページでは、起案者が主に用意するメニュー群を一覧化しています。
それぞれの施策は、単独で完結するものではなく、
Person / Business / Society の各領域、イベント、事務局、SAR 提案とつながるよう設計されています。
導入、共催、試行、連携のご相談は、各施策または問い合わせページよりお寄せください。

17. このまま実装に回しやすい使い方

この原稿群は、WordPress では次の単位で使いやすいです。

タイトル

リード文

本文ブロック

一覧ブロック

CTA ブロック

特にトップ、構想、事務局群、メニュー、提案広場、イベント、問い合わせは、
このまま固定ページの一次原稿として使えます。

必要であれば次に続けて、

この原稿を「ページごとにコピペしやすいプレーンテキスト形式」に整え直すか、
WordPress ブロック構成に合わせて「見出し 2・見出し 3・本文」の形で再整形 できます。

📄 ホームページサイトマップ表

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ / ページ名
A. 構想	構想の宣言	
	起案背景	
	3つの柱	
	社会課題攻略事務局「群れ」とは	
	モデル無き社会打破とは	
	よくある誤解 / FAQ	
B. 課題地図	閉塞感の全体像	
	個人領域の課題	
	事業領域の課題	
	社会領域の課題	
	業界横断課題	
	優先テーマ一覧	
C. 事務局群	事務局群の設計思想	
	事務局の分類	個人支援系
		事業変革系
		社会接続系
		研究・編集系
		提案・実装系
	事務局ごとの役割テンプレート	
	新規事務局立ち上げ方法	
	参加条件 / 関わり方	
D. メニュー	Person Menu	Share
		Meeting
		Cafe
		個人向け相談導線
		未来構想キャンペーン
	Business Menu	組織内活性化
		未来顧客育成
		企業向け提案導線
		社会課題解決事務局群
	Society Menu	SAR コーディネート
		Café about Business/Society
		公共・社会向け導線
		発起人メニュー
E. 提案広場	解決案一覧	発起人 01 ~ 10
	代替案一覧	
	救済案一覧	
	募集中テーマ	
	投稿ガイドライン	
	審査・編集ポリシー	
	事例 / 採択提案	
F. ステークホルダー別提案	個人 / 企業 / 中小企業	
	自治体 / 教育機関	
	NPO・地域団体 / 業界団体	
	メディア / 研究者	
G. ツール群	リーダーシップマッピング	
	未来構想書	
	ヒューマンキャンバス	
	ツール活用事例	
	導入相談	
H. 学習・伴走	Lessons	Person Area
		Business Area

	Arrow
	Event
	参加案内
I. 市場と基盤	Market
	Platform / DNS 構想
	マッチングの考え方
	実装ロードマップ
J. 発起人・運営	発起人 10 名
	事務局長・ディレクター構想
	運営規約 / ポリシー
	沿革 / About us
K. 参加・問い合わせ	相談したい / 提案したい
	協力したい / 登壇・共催したい
	資料請求

この表をベースに、さらにブラッシュアップする作業をお手伝いできます。必要に応じて、以下の項目についてお知らせください。

- 各ページの具体的な掲載内容(ワイヤーフレームの要素)を書き出しますか？
- ユーザーが迷わないためのグローバルナビゲーション(主要メニュー)の選定を行いますか？

あなたが話した内容: 各ページの具体的な掲載内容(ワイヤーフレームの要素)を書き出してください。

提案されたサイトマップに基づき、11 の主要カテゴリー(A~K)における具体的な掲載内容とワイヤーフレームの構成要素を整理しました。構想の宣言、課題地図、事務局群、メニュー構造など、プロジェクトの構造化に必要なテキストと図解要素を各ページに配置する設計としています。

あなたが話した内容: 各ページの具体的な掲載内容(ワイヤーフレームの要素)を書き出して、表示してください。

ご提示いただいたサイトマップ(A~K)の全ページにおける具体的な掲載内容(ワイヤーフレームの構成要素)を網羅して書き出しました。

Web サイトを実際に制作・デザインする際の設計図(ワイヤーフレーム)として、そのまま構成要素のチェックリストにご活用いただけます。

各ページの掲載内容・ワイヤーフレーム要素一覧

A. 構想

構想の宣言

- メインビジュアル: プロジェクトの思想を象徴するキャッチコピーとビジュアル。
- ステートメント本文: なぜ今この構想が必要なのかを語る熱量のあるテキスト。
- ビジョン・ミッション: 目指す社会像(ゴール)と果たすべき役割の明文化。
- 発起人からのメッセージ: 代表者または発起人一同からの署名入りメッセージ。

起案背景

- 現状への問題提起: 現代社会が抱える限界や閉塞感をデータやファクトで提示。
- 時代の変化・ターニングポイント: 外部環境の変化(技術、人口、価値観など)の解説。
- なぜ今、私たちがやるのか: 立ち上げに至った原体験や強い動機・ストーリー。

3つの柱

- 3つのコア概念の図解: 構想を支える3つの柱の三位一体図、または3カラムのレイアウト。
- 第1の柱(詳細説明): 概要、アプローチ、期待される効果。
- 第2の柱(詳細説明): 概要、アプローチ、期待される効果。
- 第3の柱(詳細説明): 概要、アプローチ、期待される効果。

社会課題攻略事務局「群れ」とは

- 「群れ」の定義: 従来の単一組織や縦割り行政と何が違うのかの比較表。
- 自律分散型の仕組み: 各事務局が独立しながらも連携して動くエコシステムの図解。
- 期待されるシナジー: 「群れ」となることで生まれる集合知やスピード感の解説。

モデル無き社会打破とは

- 「モデル無き社会」の解説: 過去の成功体験や先行事例が通用しなくなった現状の分析。
- 打破するための方法論: 既存の枠組みにとらわれず、新たな正解を自ら作り出すアプローチ。
- 私たちが提示するパラダイムシフト: ビフォー・アフターの比較。

よくある誤解 / FAQ

- よくある誤解トップ3: 「〇〇だと思われがちですが、実は××です」という誤解の解消。
- Q&A リスト: 参加費、運営母体、政治的・宗教的中立性、活動頻度などに関する一問一答(アコーディオン UI)。
- お問い合わせ導線: FAQ で解決しなかった人向けの専用フォームへのボタン。

B. 課題地図

閉塞感の全体像

- 課題地図(インフォグラフィック): 社会全体を覆う閉塞感がどこから来ているのかを可視化した巨大な構造図。
- マクロトレンド分析: 統計データや社会的背景の解説。
- 各領域へのナビゲーション: 「個人」「事業」「社会」の各課題ページへのリンク。

個人領域の課題

- 生きづらさ・キャリアの迷い: 孤立、自己実現の難しさ、ロールモデルの不在などのファクト。
- ペルソナ事例: 現代の個人が直面している具体的な悩みや葛藤のストーリー。

- この領域を扱う事務局へのリンク: 個人支援系の事務局一覧への遷移ボタン。

事業領域の課題

- イノベーションの停滞・組織の硬直化: 既存ビジネスモデルの限界、DXの遅れ、カルチャーの課題。
- 業界ごとの機能不全: 事例やデータを交えた解説。
- この領域を扱う事務局へのリンク: 事業変革系の事務局一覧への遷移ボタン。

社会領域の課題

- 制度の疲弊・地域の過疎化: 行政の手が届かない隙間(コモンズの崩壊、福祉の限界など)。
- 構造的なボトルネック: なぜ既存の社会システムでは解決できないのかの解説。
- この領域を扱う事務局へのリンク: 社会接続系の事務局一覧への遷移ボタン。

業界横断課題

- セクター間の分断: 行政、企業、NPO、アカデミアが連携できない「縦割りの壁」の指摘。
- 共通する共通言語の不在: 課題認識や評価指標がバラバラであることによる非効率性の解説。
- 横断的アプローチの必要性: クロスセクターで取り組むべき理由。

優先テーマ一覧

- 重要課題ランキング/マトリクス: 緊急度×重要度でマッピングされた優先解決テーマ。
- 各テーマの進捗ステータス: 「未着手」「事務局立ち上げ中」「プロジェクト進行中」などのバッジ。
- 提案募集への導線: 「このテーマに挑むアイデアを出す」ボタン。

C. 事務局群

事務局群の設計思想

- ガバナンスと分散化: 中央集権にしない理由、プラットフォームとしての基本方針。
- 共通の倫理憲章・バリュー: 全ての事務局が遵守すべき行動規範。
- 評価と代謝の仕組み: 成果の測り方、または役割を終えた事務局の解散・統合ルール。

事務局の分類

- 5つの分類タブ(またはインデックス):
 - 個人支援系: 個人のエンパワーメント、キャリア、ウェルビーイング。
 - 事業変革系: 新産業創出、組織開発、ビジネスモデル刷新。
 - 社会接続系: 公共性の再定義、地域連携、コモンズの再生。
 - 研究・編集系: 課題の構造化、ナレッジ蓄積、メディア発信。
 - 提案・実装系: 政策提言、実証実験、社会実装の推進。
- 各分類に所属する事務局のミニカード一覧:(事務局名、概要、現在のステータス)。

事務局ごとの役割テンプレート

- 共通フレームワーク: 各事務局が必ず持つべき機能(リサーチ、コミュニティ、インキュベーション、発信)。
- 体制図テンプレート: 事務局長、ディレクター、フェローなどの役割定義。
- アウトプットの定義: 事務局が社会に対して出すべき成果物の定義(レポート、イベント、実証プロジェクト)。

新規事務局立ち上げ方法

- 立ち上げステップ(ステップ図): 構想の提案 → 審査 → プレ立ち上げ(仲間集め) → 本立ち上げ。
- 申請要件: 必要なメンバー構成、テーマの重複チェック、クリアすべき条件。
- 運営事務局からのサポート内容: ツール提供、メンタリング、マッチング、資金調達支援など。
- 申請フォームへのリンク: 「事務局立ち上げを申請する」ボタン。

参加条件 / 関わり方

- 関わり方グラデーション(3~4パターン): コアメンバー(事務局運営)、プロジェクトメンバー、サポーター(情報収集・イベント参加)、スポンサー(企業支援)。
- 各プランのコミットメント・特典: 必要な時間や費用、得られるナレッジやネットワークの比較表。
- エントリーボタン: 各関わり方に応じた申し込み・登録ページへの誘導。

D. メニュー

Person Menu

- Share(知見共有): 個人が持つナレッジや経験をコミュニティに共有する仕組み・投稿フォーム。
- Meeting(対話・壁打ち): 定期開催される少人数マッチングや、課題へのフィードバックの場。
- Cafe(交流): 気軽に雑談や横のつながりを作れるオンライン/オフラインスペースの案内。
- 個人向け相談導線: 「自分のスキルをどう活かせるか」「今の悩みをどこに相談すべきか」をナビゲートする問い合わせボタン。

Business Menu

- 未来構想キャンペーン: 企業の未来のパーパスや新規事業の種を、事務局群と共創するプログラムの案内。
- 組織内活性化: 社員のマインドセット変革や、出向・プロボノを通じた人材育成メニュー。
- 未来顧客育成: 社会課題解決を通じて、未来の市場やファン(顧客)を育てるアプローチの提案。
- 企業向け提案導線: 資料ダウンロード、または個別ミーティング予約フォーム。

Society Menu

- 社会課題解決事務局群: 官民連携や地域課題に特化したプロジェクトの一覧と進捗報告。
- SAR コーディネート: 社会的責任(SAR)に基づいたプロジェクトのデザイン・マッチング支援。
- Café about Business/Society: ビジネスと社会の交差点について、有識者や実務家が交わすセッション・イベントの案内。
- 公共・社会向け導線: 自治体や官公庁、NPO 向けの連携相談窓口。

発起人メニュー(発起人 01~10)

- 発起人一覧/個別ページ: 10名それぞれの顔写真、プロフィール、専門領域。
- 個別テーマ・独自プロジェクト: 各発起人が主導する分科会や、関心のあるテーマのコラム。
- 発起人のSNS・外部リンク: 本人の活動や著書の紹介。

E. 提案広場

解決案一覧 / 代替案一覧 / 救済案一覧

- 3つのアプローチの定義: 各案(解決/代替/救済)がどのような思想に基づいているかの解説。

- 提案カード一覧(フィルタ機能付き): 投稿された提案の一覧(タイトル、提案者、カテゴリ、イネ/コメント数、進捗ステータス)。
- 詳細ページへのリンク: 各提案の背景、具体策、必要なリソース、コメント欄。

募集中テーマ

- 現在大募集中の問い: 事務局や発起人から提示された「今、特にアイデアが欲しい課題」。
- 募集期限・インセンティブ: いつまで募集しているか、採択された場合の特典(共同プロジェクト化など)。
- 応募ボタン: 「このテーマに提案する」フォームへの遷移。

投稿ガイドライン / 審査・編集ポリシー

- 安心安全な場づくりのためのルール: 誹謗中傷の禁止、知的財産権の扱い、建設的な対話のルール。
- 採択・公開のプロセス: 投稿された内容がどのように審査され、サイトに掲載されるかのフロー図。
- 編集部の役割: 提案のブラッシュアップをサポートする編集方針の明記。

事例 / 採択提案

- サクセスストーリー: 実際に提案広場から生まれ、社会実装や事業化に至った事例のインタビュー(写真付き)。
- タイムライン/軌跡: 提案から実装までのフェーズごとの動き、関わったステークホルダーの紹介。
- 定量・定性効果: どのようなインパクトを社会に与えたかのデータ。